

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨01 県西つくば協同組合次期策 支援部会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現況 192.46ha(19,246a) ⇒ 目標 192.46ha(19,246a)	19,246	19,246	新型コロナウイルス感染症の発生による影響を受けた県西つくば協同組合次期策支援部会各支部会員の圃場において、次期作における集出荷経費の削減に資する資材の導入や労働安全確認事項を実施するとともに、新たに直販等を行うためのHP等の環境整備、輸出等の新たな需要確保に向けた新技術導入、海外の残留農薬基準への対応等の取組を行うことにより、国内外の新たな需要等に対応。 また、取組実施者に対して本事業の実施等に必要な事項の周知徹底を図るとともに、対策の適正な実施を確保するための指導及び事務並びに取組実施者から提出された申請書等の確認、取りまとめ、取組実施者に対する交付金の交付等を行った。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨02 鹿嶋市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状 117.7 a ⇒ 目 標 130 a	117.7	117.7	次期作に向けて、鉢物や切り花用生花では、市場ニーズに即した品種を次期作でも栽培しており、必要な資材の利用を実施している。	対象作物である花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
茨03 行方市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状 8,068.9 a ⇒ 目標 8,068.9 a	8,068.9	8,068.9	1. 野菜 [5万円/10a] レンコンや甘藷などを中心に、定植機、収穫機等の導入により作付拡大を図るとともに高品質栽培に資する肥料等を導入。 2. 野菜 [80万円/10a] 次期作に向けて、大葉では、産地で戦略的に推進するEM活性液、ボカシ肥料等の導入・利用を推進する。 3. 花き 次期作に向けて、シクラメン等の鉢物では、葉組回数の低減や栄養診断技術等の低コスト・高品質安定生産や実需者ニーズに即した品目等の導入を進めることにより有利販売に向けた活動をおこなう。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨04 一般財団法人水戸市農業公 社	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現況 5,692 a ⇒目標 5,692 a	5,692	6,466	1 野菜 多品目野菜の栽培に、産地で戦略的に推進する肥料・農薬等を導入 2 花き 実需者ニーズに即した新たな品種の導入及び品質向上に要する資材等の導入	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨05 大洗町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状 6,753 a ⇒ 目 標 7,000 a	6,753	7,084	次期作に向けて機械体系の導入によって、省力化や効率的な生産体制の確立、安定生産を図ることができた。 また、農作業安全啓発動画を視聴させるなどの農作業事故を未然に防ぐ取組をおこなった。	対象作物である野菜・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨06 なめがたしおさい農業協同 組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状 37,709 a ⇒ 目標 37,709 a	37,709	37,709	市場価格が低迷するなどの影響を受けた野菜・花き等の高収益作物について、次期作に前向きに取り組む生産者を支援する。 次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する品目や品種の導入、配合飼料及び農薬の導入・利用を推進し、次世代に向けた土作りを基本とした産地の維持・発展を図ります。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨07 新ひたち野農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 5,337.3 a ⇒ 目標 5,500 a	5,337.3	5,524	次期作に向けて野菜に関しては、労働安全講習会の実施や土地改良、産地で推奨する肥料などの導入・利用を推進する。 また、花きについては市場・実需者が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、市場・実需者ニーズに即した品種の導入や、加温装置などを利用した安定的な生産を実施する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨08 潮来市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,248 a ⇒ 目標 1,300 a	1,248	1,412	1. 野菜 次期作に向けて、小松菜等の潮来市水田収益力強化ビジョンで示される高収益作物を、2～4月以降の業務需要の市場増加を見込みながら、安全講習等を学び、実践していくことで安定生産を図っていく。 2. 花き 次期作に向けて、安定した需要のある松を栽培し、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために選別機の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨09 高萩市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 142 a ⇒ 目標 145 a	142	201	1. 野菜 次期作に向けてサツマイモでは、生産コストの低減のため収穫機の導入・利用の推進を行うとともに、作業環境改善のため労働安全事項の実施に取り組んだ。 2. 花き 次期作に向けて産地で推奨する品種である鉢物等（クレマチス、サンビタリア等）を栽培し、さらに産地で戦略的に推進するIBS1号、ピーターズ等の肥料の導入、利用を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨10 北茨城市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 96.464 a ⇒ 目標 100 a	96.464	96.464	これまでの実需者ニーズを満たせるよう、市場から求められている品種を継続して栽培し、これまで通りの高い品質を確保するため、それぞれの品種、品目に合った肥料や農薬を選択し次期作に生かす。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
茨11 城里町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,457 a ⇒ 目標 1,500 a	1,457	1,461	次期作に向けて、ほうれん草やねぎでは、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、産地で戦略的に推進する有機アグレット肥料及び機械化体系の導入・利用を推進した。 切花等では、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のためにビニールハウス栽培及び機械化体系の導入・利用を推進した。 茶については、新茶イベント等で啓発するとともに、機械化体系に資する摘採機・中切り機等の導入・利用を推進した。 また、厳選出荷の取組として、茶商が求める品質等の情報やそれに対応する生産方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって被覆の実施や仕上げ機による粉引き等に取り組んだ。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積から増加しているため指導しない

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨12 八千代町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 37,690 a → 目標 37,700 a	37,690	37,690	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために新たな機械の導入・利用を推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって長期保管による品質保持・出荷量調整ができるよう新たな機械の導入・共同利用を推進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
茨13 つくば市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 7,373 a → 目標 9,703 a	7,373	9,703	1. 野菜 次期作に向けて、ネギでは、生産コストの削減のための農業機械利用、農産物の品質向上を図るための農薬、肥料の利用、作柄安定を図るために土壌改良などの土づくりを推進する。また、県指定の新品種「いばらキッス」(いちご)、「むらさきいも」(さつまいも)の導入を推進する。併せて、販路拡大のためのHPの整備、食の安全に関心が高い市民の需要に応えるため、GAP認証取得や有機農業の取組を推進する。 2. 花き 次期作に向けて、多くの品種の苗や種(新品種を含む)を購入し、高品質な鉢花を出荷し生産能力を上げ産地としての力を発展させる。芝については、つくば市と農研機構との共同研究で生まれた市推奨の「つくばグリーン、太郎、姫、輝」の改良品種の導入や、機械利用による生産コストの削減、農薬・肥料の導入などつくば芝の作柄安定を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨14 龍ヶ崎市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 2.471ha (247.1a) ⇒ 目標 2.471ha (247.1a)	247.1	247.1	1. 野菜 次期作に向けて、堆肥の投入による土壌改良を行うとともに、安全講習会を受講し、農作業安全の取組のこれまで以上の充実・徹底に取り組む。 2. 花き 産地で推奨する品種の栽培を推進する。また、かん水設備等の導入を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨15 常総市認定農業者の会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 9,729.3 a ⇒ 目標 9,750 a	9,729.3	9,750	産地で推進する肥料や農薬、土壌改良財等を導入することや、市場ニーズに応じた品種の導入を推進する。あわせて、安全に農作業を実施できるよう、農作業安全に関するチラシの配布などを実施し、安全意識の向上に努める。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨16 五霞町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 1,251 a → 目標1,251 a	1,251	1,377	野菜・果樹 多品目の作付けがあり、申請者のほとんどが道の駅ごかに出荷を行っている。コロナ禍による一般客の外出自粛による消費の伸び悩みにアプローチするべく、売れる農産物の育成にむけて産地で推奨されている肥料や農薬の導入・利用を推進する。 花き 鉢物の栽培が多いが、切り花も道の駅ごかで、販売を行っている。コロナ禍によるイベント等の縮小や中止に伴い需要の減少がみられる。しかし、盆や彼岸等といった行事には一定の需要が見込めることから、よりよい品質の花きの育成や長く楽しめる鉢物の消費を促進するために、灌水装置の導入などを推進する。	対象作物である野菜・果樹、花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨 17 牛久市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,509.2 a ⇒ 目標 1,509.2 a	1,509.2	1,509.2	1. 野菜 次期作に向けて、土壌改良による作柄安定を図るため、土壌分析を行うとともに、作業環境の改善のために、これまで以上に農作業安全の取組を推進。 2. 花き 次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、生産性や品質向上のために茨城県で推奨する品目や品種の栽培を推進。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨 18 石岡市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 817 a ⇒ 目標 900 a	817	906.8	次期作に向けて、生産コスト削減のために、農業機械の導入・利用を行うとともに、安定生産を図るため、産地で推奨する優良品種の継続栽培を推進する。 また、実需者ニーズに即した優良品種を導入するとともに、土づくり・排水対策等作柄安定のために土壌消毒の実施を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 19 つくばみらい市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 6568.4 a ⇒ 目標 6570 a	6,568.4	6,568.4	次期作に向けて野菜については土壌診断をもとに効率的な肥培管理をおこなう。花きについては消費者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために加温装置の利用を推進する。また農作業事故撲滅のために安全講習会等を開催し農業者及び関係者全員の意識啓発を図る。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
茨 20 取手市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 677.5 a ⇒ 目標 680 a	677.5	677.5	次期作に向けて野菜については土壌診断をもとに効率的な肥培管理をおこなう。花きについては消費者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために加温装置の利用を推進する。また農作業事故撲滅のために安全講習会等を開催し農業者及び関係者全員の意識啓発を図る。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
茨 21 守谷市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 256 a ⇒ 目標 257 a	256	256	次期作に向けて野菜については土壌診断をもとに効率的な肥培管理をおこなう。また農作業事故撲滅のために安全講習会等を開催し農業者及び関係者全員の意識啓発を図る。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨22 河内町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1200.3a ⇒ 目標 1280.3a	1,200.3	1,333.7	1. 野菜 次期作に向けて農業用機械を利用し生産・流通コストの削減に資する取り組みを行う。また、農作業の安全な取り組みをこれまで以上に充実・徹底していく。 2. 花卉 次期作に向けて、産地等で推奨する品目又は品種の栽培に取り組むことにより、市場等で求められた需要が見込める品目又は品種の栽培、オリジナル商品を開発することで売り上げを確保する。また、加温装置やLED照明装置を利用し、生産性や品質向上に努める。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨23 かすみがうら市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 26,800a ⇒ 目標 27,000a	26,800	27,065	1. 野菜 次期作に向けて、れんこんでは、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに収穫機や耕運機の導入を行うとともに、れんこんへの適用が拡大されたグランドオンコル粒剤（農薬）の導入・利用を推進。 2. 果樹 次期作に向けて、栗では、品質向上のために冷蔵貯蔵庫の導入・利用を推進。 3. 花き 次期作に向けて、ガーベラでは、実需者ニーズに即した品種や優良な種苗を導入するとともに、安定生産のために点滴施肥の導入・利用を推進。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨24 桜川市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 4,253.3a ⇒ 目標 4,253.3a	4,253.3	4,253.30	次期作に向けて、生産性又は品質向上のために、産地等で推進する肥料、農薬及び資材を導入する。また、産地等で推奨する品目・品種の栽培及び農薬の利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨25 日立市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 264a ⇒ 目標 264a	264	276.8	1 野菜 次期作に向けて安定生産を図るため、産地で推進する肥料の導入・利用を促進するとともに、機械化体系に資するため、管理機（マルチャー）を導入する。 2 花き 安定生産及び品質向上のため、ニーズに即した品種の導入を推進するとともに、ハウスの貼替及び土壌診断の機械を導入する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨26 坂東市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 648ha (64,798a) ⇒ 目標 650ha (65,000a)	64,798	64,798	次期作に向けて、労働安全講習会を開催し、農作業安全の取り組みをこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地が推奨する肥料・農薬等の導入・利用を推進し、高品質生産を促進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
茨27 茨城町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 98.4ha(9,844.3a) ⇒ 目標 99.5ha(9,956.3a)	9,844.3	9,956.3	1. 野菜 次期作に向けて、安定生産を図るため、土壌診断の実施、土壌改良資材の施用、農業用機械利用の安全啓発等を推進する。 2. 花き 次期作に向けて、切花(バラ)、鉢物、切枝、苗物では、実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、安定生産のために推奨される肥料の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨 28 つくば市谷田部農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 52 a ⇒ 目標 52 a	52	52	次期作に向けて、白菜、キャベツでは、コスト低減と安定供給を図るため、産地で推奨するオリジナル肥料、低コスト肥料や低コスト農業の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨 29 土浦市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 27,727 a ⇒ 目標28,000 a	27,727	28,935.5	1. 野菜 次期作に向けて、レンコンでは省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに収穫機や耕運機の導入を促進するとともに、近年問題となりつつあるセンチュウ対策として、レンコンへの適用が拡大されたグラウンドオンコル(農薬)や石灰窒素(単肥)の利用を積極的に働きかけた。 2. 果樹 次期作に向けて、ブルーベリーでは、安定生産のために地域で推奨する農薬や肥料の使用を推進するほか、農作業安全啓発動画の視聴を促すことにより、労働安全意識の向上を図った。 3. 花き 次期作に向けて、いずれの品目においても、実需者ニーズに即した品種や優良な種苗の導入を促すとともに、安定生産のために点滴施肥の導入・利用を促進した。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 30 大子町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 3,531 a ⇒ 目標 3,531 a	3,531	3,584	次期作に向けて、野菜においては土壌改良剤の施用による土づくりの推進、果樹においては防除層に基づく薬剤の適期散布の推進、花き及び茶においては肥料の施用による生産性・品質向上を推進するとともに、全ての作目において農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底する。	対象作物である野菜・果樹・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 31 鉾田市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 85,099 a ⇒ 目標 85,099 a	85,099	85,555	管内はかんしょや葉物野菜、いちごを中心とした産地である。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、観光農園や契約取引をしている事業者は売り上げの大幅な下落が生じた。花卉についてはイベントの減少により消費が減退したため売上額が減少した。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生産者が離農することせずに営農を継続することができるよう需要の拡大が見込まれる品目の栽培を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 32 下妻市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 721 a ⇒ 目標 721 a	721	863	野菜について、次期作に向けて、産地で推奨する品目又は品種の栽培、産地で推奨する肥料・農薬・資材の利用に取り組む。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 33 ひたちなか市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 7,396.8 a ⇒ 目標 7,789.8 a	7,396.8	7,789.8	1. 野菜 次期作に向けて、農作業安全の取組をこれまで以上に充実、徹底させるとともに、産地の基幹産業である甘藷(生食用・干し芋用)の栽培を支援。 2. 花き 次期作に向けて、コロナの影響により花きを栽培する生産者が経営を断念しないように、普段維持コストがかかる施設を利用している花きの生産者に対して、生産性又は品質向上に要する資材等の導入に資する取組に対して支援。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨 34 古河市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 323ha (32,306a) ⇒ 目標 324ha (32,400a)	32,306	32,670	1 花き 次期作に向けて、県銘柄産地指定品種のバラでは、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために産地で推奨する肥料の使用や被害防止のために二重張りカーテンの導入・利用等を行った。 2 茶 次期作に向けて、推奨品種である、さしま茶の安定生産のために、防霜ファン等の利用を始めた。 3 野菜 次期作に向けて、レタスをはじめとした作物では、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに移植機の利用を行うとともに、産地で推奨する肥料、農薬の導入等をおおむねの農家が行った。	対象作物である花き・茶・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 35 小美玉市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 9,363 a ⇒ 目標 9,508 a	9,363	9,508	1. 野菜 次期作に向けて、安定生産を図るため、労働力不足を補うため移植機等の機械導入や、新しい販路先(契約出荷)を開拓するため土壌消毒による特別栽培等に取り組んだ。 2. 花き 次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を安定生産するとともに、推奨する肥料・農薬の導入や、作業の省力化を図る焼土殺菌乾燥機の導入・利用等に取り組んだ。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 36 常陸大宮市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 5,614 a ⇒ 目標 5,614 a	5,614	5,589	1. 花き 次期作に向けて管内の花ウメ、ハナモモ、キバコデマリ、トルコキキョウ等以外に実需者ニーズに即した品種の導入を図るとともに厳選出荷の取組の推進を行う。また生産者一体となって長期保管による品質保持及び出荷量調整が出来る様冷蔵貯蔵庫の拡大を進める。 2. 野菜 管内では、イチゴ・ナスを中心に産地で戦略的に推進する肥料や梱包材を導入・利用する。	対象作物である花き・野菜において、計画時の現況面積を維持できていないため指導
茨 37 神栖市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 152 a ⇒ 目標 152 a	152	152	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入する。また、省力化によるコスト低減に取り組み、安定生産を図るための適正な農薬等の利用を進める。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨 38 結城市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 35,109.7 a ⇒ 目標 35,109.7 a	35,109.7	35,109.7	1. 野菜 次期作に向けて、ハクサイ、レタス、ネギ、未成熟トウモロコシでは、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに定植機等の共同利用を行うとともに、産地で推進する肥料、農薬及び被覆資材の導入・利用を推進する。 2. 花き 次期作に向けて、切り花（バラ等）・鉢物などでは、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のためにLED照明装置等の導入・利用を推進する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって長期保管による品質保持・出荷量調整ができるよう冷蔵貯蔵庫等の導入を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨 39 稲敷農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 29.75ha (2,975a) ⇒ 目標 29.75ha (2,975a)	2,975	2,975	1. 野菜 次期作に向けて、蓮根では生産性・品質の向上を図る為、産地推奨農薬使用を実施し、新型コロナウイルス対処方針として稲敷農業協同組合が集出荷施設利用者に対して、事業継続計画を策定し、事業継続を図った。 苺、葱、茄子、ブロッコリー、小松菜については、作柄の安定・土づくりの為、土壌診断を実施し、新型コロナウイルス対処方針として稲敷農業協同組合が集出荷施設利用者に対して、事業継続計画を策定し、事業継続を図った。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨 40 美浦村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 611 a ⇒ 目標 650 a	611	611	次期作に向けて、レンコンでは、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、産地で戦略的に推進する肥料の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
茨 41 境町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 15,546.1 a ⇒ 目標 15,600 a	15,546.1	16,623.1	1. 野菜 次期作に向けて、野菜では、主に肥料、農薬の導入等の生産性又は品質向上に要する資材等の導入に資する取組を実施し、生産性及び品質向上に寄与した。 2. 花き 次期作に向けて、産地が推奨する品種である秋明菊やフリージアの栽培において資材等の導入に資する取組を実施し、生産性又は品質向上に寄与した。 3. 茶 次期作に向けて、生産者が意見交換をし、地域でまとまって資材導入について取組を実施し、地域全体で生産性及び品質向上に寄与した。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨 42 利根町地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 279 a ⇒ 目標 285 a	279	347	次期作に向けて、管内全体では、産地で戦略的に推進する肥料及び土壌改良資材の導入・利用することで、コストの削減と生産性の向上に取り組む。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨43 稲敷市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 5,200 a ⇒ 目標 5,200 a	5,200	5,483	○野菜 連根を中心に新たに収穫機等の導入や産地で推奨する肥料等を導入。 ○花き 産地で推奨する品種の栽培や加温装置の利用。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨44 笠間市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 981 a ⇒ 目標 1,031 a	981	1,031	次期作に向けて、安定して良品質な花き・野菜を生産するため、産地で推奨する品種・品目及び肥料等を導入するとともに、かん水装置や自動カーテン等で設備管理を行う。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨45 つくば市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 30ha (3,018a) ⇒ 目標 30ha (3,018a)	3,018	3,018	次期作に向けて、堆肥・土壌改良材等を活用して品質向上に努めるとともに、実需者ニーズに即した新たな品種を導入、安定生産を推進する。 また、出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって機械化の導入による生産性の向上を目指す。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
茨46 やさと農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 1,146.8 a ⇒ 目標 1,234.3 a	1,146.8	1,234.3	実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために優良品種の継続栽培を推進。また、良品生産のための肥培管理と効率的防除を可能にした殺虫剤・殺菌剤等の活用を推進。コロナウイルスにより大きな打撃を受けてしまったので、今後は感染拡大防止にも目を向け、機械化・効率化を図った。	対象作物である花き・野菜・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨47 阿見町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 3,232 a ⇒ 目標 4,338 a	3,232	4,338	次期作に向けて、レンコン作では、適切な施肥管理・土壌改良のための堆肥散布等、品質向上のための栽培を引き続き行っていく。露地野菜作では、ネギ掘り取り用のトラクターや、白菜の移植機など、機械化体系の導入を行い、効率的な農業体系づくりを積極的に進めていく。花きでは、土壌改良に向けた資材を活用し、連作障害が生じにくい土壌作りに取り組む。また、輪作体系の中で緑肥を取り入れることにより、より高品質な作物を生産できるように工夫し、高収益作物の生産を推進していく。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨48 筑西市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 158ha (15,877.7a) → 目標 160ha (16,000a)	15,877.7	16,566.1	【1. 野菜】次期作に向けて、品質の高位平準化のために産地で推奨する肥料や農薬の利用を推進すること、農作業時における事故の防止のために安全講習会や農作業安全啓発動画の視聴を実施すること、土壌診断の実施によって適切な施肥設計を行うことなどを中心に取り組む。 【2. 花き】次期作に向けて、市場で需要の高い産地で推奨する品種の栽培に取り組むことや品質の高位平準化のために産地で推奨する肥料や農薬の利用を推進すること、適切な水管理のために灌水装置の利用をすることなどを中心に取り組む。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨49 常陸太田地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,704 a ⇒ 目標 1,800 a	1,704	2,040	野菜と花きについて、次期作に向けて、産地で戦略的に推進する肥料、農薬の利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

茨城県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
茨50 東海村地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 6,545 a ⇒ 目標6,700 a	6,545	6,764	次期作に向けて、干し芋（サツマイモ）では、生産・流通コストの削減を目的に農業の機械化を図る。特に収穫機（ポテカルゴ）を導入することにより、作業時間の低減と生産効率の向上を目指す。さらに、高品質な農産物を栽培するため、肥料等による土壌改良を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
茨51 那珂市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 575.6 a ⇒ 目標 594.6 a	575.6	614.6	次期作に向けて、トマト等においては、土壌分析を計画的に行い、適切な土壌状態を維持し栽培を行った。 また、カーネーション等においては、産地で戦略的に推進する品種の導入を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

栃木県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
栃01 足利市農業再生協議会	令和2年度	現状 11.2a ⇒ 目標 11.2a以上	11.2	11.2	・機械化体系の導入（省力化のための機械の導入） ・品目品種等の導入（実需者ニーズに即した品種の導入） ・かん水設備等の導入（ハウス内温度湿度調整のための機械の導入）	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃02 真岡市農業再生協議会	令和2年度	現状 2,653.2a ⇒ 目標 3,423.2a	2,653.2	3,423.2	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新品種を導入するとともに、高品質な作物を生産するための施設設備等の導入を推進する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有する。 更に野菜類については、農作業安全の取組の充実や徹底を図ると共に、省力化によるコスト低減と安定生産や規模拡大を目的とし、新たな農業機械の導入を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
栃03 益子町農業再生協議会	令和2年度	現状 2,211a ⇒ 目標 2,211a	2,211.0	2,211.0	花卉 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために土壌消毒を実施した。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって荷量調整ができるよう取り組んだ。 野菜 産地が推進する堆肥や土壌改良剤を活用し、品質の高い作物の栽培に取り組んだ。また安全講習会により安全な農作業を行うことができた。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃04 小山市農業再生協議会	令和2年度	現状 1,100a ⇒ 目標 1,300a	1,100.0	1,314.0	野菜については、次期作に向けて生産・流通コスト低減による安定生産を図り産地で推奨する農薬の利用、また、安全講習会（eラーニング）を受講し農作業安全の取組をこれまで以上に徹底した。 花きについては、次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を主要出荷市場及び農業振興事務所と協議し選定して、産地の推奨する農薬を導入した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
栃05 栃木県農業協同組合中央会	令和2年度	現況 1,583 ha (158,312a) ⇒ 目標 1,699 ha (169,900a)	158,312.0	169,919.0	【いちご】 防除指針に基づいた栽培日誌の作成・検証を行い、品質向上・生産量向上につながるよう農薬使用の指導を徹底した。 【トマト】 防虫ネット展張や、栽培日誌・発注書に記載の肥料・農薬の導入を図った 【野菜】 防除指針に基づいた栽培日誌の作成・検証を行い、適正な農薬使用の指導及び品質向上、生産量向上に取り組んだ。 【梨】 直売向けに棚持ちのよくなる出荷資材等を導入を促進した。 防除指針に基づいた栽培日誌の作成・検証を行う事で、農薬、肥料の適正使用及び品質向上、生産量向上に努めた。 【花卉】 産地の高位平準化を目的に、部会として品種検討会を実施し推奨品種を決定。推奨品種の中から、自分に合った作柄を導入した。 推奨農薬、肥料、資材を決め取りまとめを行い購入した。 【直売所売りの少量多品目野菜】 農薬適正使用講習会の実施及び部会推奨農薬、肥料の積極的な導入に努めた。	対象作物である野菜・花き・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

栃木県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
栃06 矢板市農業再生協議会	令和2年度	現状 ⇒ 1,191 a 目標 1,191 a	1,191.0	1,082.0	1 野菜 次期作に向けて、シイタケでは、品質向上を図るため、虫取りシート(資材)を新たに導入するとともに、より安全な農作業を行うため、安全講習会(eラーニング含む)の受講を推進する。 2 果樹 次期作に向けて、リンゴでは、産地等で推奨する農薬の導入・利用を行うとともに、より安全な農作業を行うため、安全講習会(eラーニング含む)の受講を推進する。	対象作物である野菜・果樹において、計画時の現況面積を維持できていないため指導
栃07 市貝町農業再生協議会	令和2年度	現状 ⇒ 215 a 目標 215 a	215.0	215.0	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、地域で生産された堆肥の利用を推進する。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応する出荷方針を関係者全員で共有する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃08 那珂川町農業再生協議会	令和2年度	現状 ⇒ 592 a 目標 610 a	592.0	592.0	次期作に向けてスプレーストックや切り花、枝もの等の新たな品種を導入し新たなニーズを獲得するとともに、産地で戦略的に推進する肥料や農薬を導入する。	対象作物である花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
栃09 日光市農業再生協議会	令和2年度	現状 1,500 a (1,502.66a) ⇒ 目標 1,500 a (1,502.66a)	1,502.66	1,541.42	野菜については、次期作に向けて省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに定植機を導入するとともに雑肥の投入等の土壌改良の取組を推進する。 花きについては、実需者ニーズに即した品目及び品種を導入するとともに、生産の安定化を図るため、土壌消毒の取組を推進する。また、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者各位で共有し、生産者一体となり品質向上ができるよう施肥や防除及び芽かき・選別の取組を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃10 栃木市農業再生協議会	令和2年度	現状 34.9ha (3,496.8a) ⇒ 目標 35.0ha (3,496.8a)	3,496.8	3,496.8	野菜では、次期作に向けて生産体制の強化や、作柄安定に資する堆肥の投入および被害防止技術の導入として土壌消毒の実施等を推進する。また、新品種の導入としては、従来品種より市場の評価の高い品種を次期作として取り組むことで、収益性の高い経営基盤の確立を推進する。 各種花きでは、需要者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定供給のために加温装置やかん水装置の利用を推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針等について関係者全員で共有し、生産者一体となって施肥や選別・荷造り等について研鑽し、推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃11 塩谷町農業再生協議会	令和2年度	現状 ⇒ 91 a 目標 1ha	91.0	102.0	1. 野菜 次期作に向けて、トマトやきゅうりでは実需者のニーズが低農薬や無農薬栽培品目であるため、産地として堆肥施用を積極的に推進する。 2. 花き 次期作に向けてファレノプシスでは、品目をより需要者ニーズに応じた新たな品種を開拓し、その品種に適した肥料農薬などを導入する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から増加しており、目標は達成された
栃12 芳賀町農業再生協議会	令和2年度	現状 ⇒ 288 a 目標 288 a	288.0	288.0	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種導入や生産体制の強化や需要開拓等に資する取組をし、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって高品質な生産、出荷体制をつくることで産地形成に取り組む。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

栃木県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
栃13 鹿沼市農業再生協議会	令和2年度	現状 1,737.3 a ⇒ 目標 1,737.3 a	1,737.3	1,737.3	(いちご) 次期作に向けて、産地で推奨する品種の導入を実施するとともに、産地で推奨する肥料・農薬等の導入・利用を促進する。 (花き・花木) 次期作に向けて、実需者ニーズに即した品目又は品種の導入を実施するとともに、産地で推奨する肥料・農薬等の導入・利用を促進する。 また、厳選出荷の取組として、実需者が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者で共有し、連携して品質向上が出来るよう芽かきや摘花等の取組を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
栃14 野木町農業再生協議会	令和2年度	現状 94 a ⇒ 目標 104 a	94.0	104.0	新型コロナウイルス感染症の発生により、出荷量や単価が減少するなどの影響を受けたため、次期作に向けて、資材導入や作柄安定に資する対策を実施する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
栃15 下野市農業再生協議会	令和2年度	現状 908.1 a ⇒ 目標 1,300 a	908.1	1,290.0	1. 野菜 管内申請者については、産地で推奨している品種・肥料の導入、土壌改良・消毒の実施により作物の生産体制を整え、次期作の生産性向上を目指す。 2. 花き 花きについては、産地で推奨している品種・肥料・農薬の導入に取り組み、次期作の安定的な生産を目指す。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
栃16 茂木町農業再生協議会	令和2年度	現状 1,699 a ⇒ 目標 1,756 a	1,699.0	1,756.0	次期作に向けて、イチゴやネギ、キャベツ、直売所出荷野菜等では、管内で戦略的に推進する「美土里たい肥」の導入・利用を推進するとともに、安全講習会を開催する。 あじさいやベラルゴニウム、ユーフォルビア等では、実需者ニーズに即した品種を栽培するとともに、安定生産のために、たい肥投入による土づくりや土壌消毒を実施する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、芽かき等追加的な作業等を行い、まとめて品質の高いものに限定して生産・出荷する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画より増加しており、目標は達成された
栃17 さくら市農業再生協議会	令和2年度	現状 380.1 a ⇒ 目標 380.1 a	380.1	374.1	次期作に向けて、生産性向上に要する肥料・農薬等の導入や作業環境の改善を実施する。 次期作に向けて、新たな品目・品種を導入するとともに、産地等で推奨する肥料及び農薬の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積を維持できていないため指導
栃18 壬生町農業再生協議会	令和2年度	現状 539.5 a ⇒ 目標 600 a	539.5	679.5	(1) 取組実施者に当事業の実施等に必要な事項の周知徹底を図り、対策の適正な実施を確保するため指導及び事務を行う。 (2) 取組実施者から提出された申請書等の確認、取りまとめ、取組実施者に対する交付金の交付等を行う。 (3) 交付金の対象となる取組について実施確認を行う。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画より増加しており、目標は達成された
栃19 宇都宮市農業再生協議会	令和2年度	現状 2530.24a ⇒ 目標 2760.10a	2,530.24	2,821.90	次期作に向けて、生産性や品質向上のためにLED照明装置などを導入・利用するとともに、安定生産のために空調装置やCO2供給装置の導入・利用を推進する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質や規格等の情報を把握し、市場と連携しながらニーズに応じた花を生産できるよう施肥(追肥・葉面散布)や灌水、選別などを行い、品質の高い花を出荷する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

群馬県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
群01 高崎市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況1,079.8a⇒目標1,227.8a	1,079.80	863.8	・次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、近年の農業資材高騰対策として土壌診断の結果を基にする施肥量の低減を計る。 ・栽培にかかる労力の低減をはかるため定植機の導入・共同利用を推進する。	対象作物である花き・野菜において、計画時の現況面積を維持できていないため指導
群02 はぐくみ地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況19.34a⇒目標20.32a	19.34	20.32	・次期作に向けて産地で推奨する品目品種の作付けを進めるとともに、堆肥の投入や推奨する肥料・農薬の活用及び資材の導入、これら利用を推進して野菜の売上回復へ向けた取組みを実施した。	対象品目である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群03 邑楽町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況425a⇒目標425a	425	246	・次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で推奨する品目及び品種の導入を推進する。	対象作物である野菜において、計画時の現況面積を維持できていないため指導
群04 甘楽富岡農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況12,992a⇒目標12,992a	12,992	13,219.6	・花卉：次期作に向けて、県の推奨する品目の作付けや、適切なかん水、空調管理、部会推奨肥料の使用等で品質向上と安定生産に務めることを、花卉生産部で協議決定し部会員全員で取組。また、厳選出荷の取組として市場の求める品質等の情報を部会員で共有し、良品出荷と需要動向に沿った生産・出荷に取組む。 ・野菜：次期作に向けて、玉葱やタラの芽等では部会で推奨する品種による販売強化や通い容器での流通コストの削減、生産現場でのコロナ対策により生産と販売の継続に取組む。 ・果樹：次期作に向けて、部会の推奨する品種や生産現場でのコロナ対策により生産と販売の継続に取組む。 ・蒟蒻：次期作に向けて、部会で推奨する県開発品種の栽培と生産現場でのコロナ対策により生産の継続に取組む。	対象品目である花き・野菜・果樹・蒟蒻の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
群05 榛東村地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況342a⇒目標342a	342	342	・次期作に向けて、時期毎の品種選定と産地で戦略的に推進する高品質で低価格な肥料、農薬及び被覆資材の利用を推進する。 ・JA等で行っている貸出農機具の利用を推進し、省力化によるコスト低減と安定生産を行う。	対象品目である野菜の作付面積は維持されており、目標は達成された
群06 吉岡町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況563a⇒目標563a	563	563	・次期策に向けて、トマト（トマトの品目名 零容）では、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、あぐりログ（IoT機器 温度・湿度・二酸化炭素の温室の環境計測機器）を利用している。ネギの管理機と枝豆の動力脱莢機を本補助事業の追加措置で導入し、担い手の農業生産性を向上させ、吉岡町の農地・農業の保全を図る。	対象品目である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

群馬県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
群07 伊勢崎市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況2,199a⇒目標2,199a	2,199	1,833	・野菜：次期作において、なす・きゅうり・トマトについては省力化によるコスト低減と安定生産を図る為、選果場の共同利用の推進を行い、産地で戦略的に環境制御導入及び規模拡大支援による反収向上・出荷量増大を推進。また、産地で推奨されている野菜の作付けを推進し、農作業の際の安全啓発を実施。 ・花卉：次期作として、トルコキキョウや胡蝶蘭などは、需要者ニーズに即した新たな品種を導入し、安定的な生産を図る為に花卉専門の指導センター普及員を中心に新技術等の導入・利用を推進。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積を維持できていないため指導
群08 佐波伊勢崎農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況49,350a⇒目標50,665a	49,350	50,636	・野菜：なす・きゅうり・トマトを中心に選果場利用を推進していくと共に安定的な生産販売を行う為、産地等で推奨する品目又は品種の導入を推進。 ・花卉：安定的な生産を図る為に花卉専門の指導センター普及員を中心に新技術等の導入・利用を推進。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
群09 太田市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況25,883.7a⇒目標25,883.7a	25,883.7	31,528.1	・野菜 次期作に向けて薬物野菜では、省力化・省人化によるコスト低減と安定生産・品質向上を図るため、各生産者による農業機械や被覆資材（遮光ネット）導入を推進する。 ・花き 次期作に向けて、キクでは、病害虫防除を徹底し、安定生産のためにLED照明装置等の導入・利用を推進する。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
群10 太田市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況10ha(1,000a)⇒目標10ha(1,000a)	1,000	1,000	・野菜：次期作に向けて、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、定植機やトラクターなどの機械装置の導入等を行う。また、生産物の品質向上のため、産地で推奨する資材や肥料の導入・利用を推進する。	対象品目である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群11 板倉町総合農業振興協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況58a⇒目標59a	58	68	・次期作に向けて、安定生産のために産地で戦略的に推進する新たな品種を導入するとともに、中性肥料及び殺虫剤の導入・利用を推進した。 ・併せて、労働安全講習会を開催し、農作業におけるリスクを確認し、安全作業意識の醸成を図った。	対象品目である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
群12 邑楽館林農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況24,115.7a⇒目標24,115.7a	24,115.7	24,866.8	・野菜：次期作に向けて、産地で戦略的に推進する肥料・農薬の導入・利用を推進した。 ・花き：次期作に向けて、計画的に出荷するために、品種を厳選し調整を行うとともに、実需者ニーズに即した品種の導入を推進した。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する生産方針を関係者全員で共有し、生産者・雇業者一体となり品質向上に取り組んだ。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
群13 みどり市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況82.7a⇒目標82.7a	82.7	82.7	・次期作に向けて、花き市場のニーズに応じ、需要の多い品種を選定し、加温装置を利用した施設栽培をすることにより、安定的生産を推進する。	対象品目である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

群馬県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
群14 桐生市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況316.6a⇒目標316.6a	316.6	316.6	・花：次期作に向けて、群馬県で推奨する重点品目を導入するとともに、生産性向上のため、県推奨の肥料の使用や土壌改良、かん水装置の利用等を推進した。	対象品目である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群15 中之条町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況7,062.6a⇒目標7,062.6a	7,062.60	7,062.60	・野菜では大型野菜・施設野菜を中心に作柄の安定を図るために土壌改良資材の施用、適切な肥料・農薬の活用を推進し、食の安心安全をPRするために堆肥の投入を行った。 ・果樹では県奨励品種を取り入れ、産地にあった農薬の導入・利用を推進した。 ・花きでは、切り花においては実需者ニーズに即した新たな品種を導入した。併せて産地梱包資材の推進、安定生産のために土壌改良資材等の施用、堆肥の投入を推進した。鉢物・苗物においては、適切な温度管理や灌水機能の充実等により、品質向上を推進した。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群16 高山村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況640a⇒目標640a	640	640	野菜：次期作に向けて、大型野菜（キャベツ、ハクサイ、レタス）では、作柄安定を図る為、土壌改良資材の施用、適切な肥料農薬の活用を推進する。また、食の安心安全をPRする為の堆肥の投入も行う。 果樹：次期作に向けて、県奨励品種を取り入れ、適切な肥料、農薬の活用を推進する。	対象品目である野菜・果樹の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群17 東吾妻町地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況1,327.9a⇒目標1,327.9a	1327.9	1327.9	・野菜：次期作に向けて、農作業効率をあげる肥料、農薬の導入を行った。また農作業の効率化を図るため農業用機械を利用した。 ・花き：次期作に向けて、施設栽培を行っているスプレーギク、スズラン、アスチルベ、スイセン、セダムなどの切り花やポリアン、デージー、チロリアンデージー、パチュニア、パンジー、ピオラなどの鉢物では、需要者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、適切な温度管理や灌水機能の充実により品質の向上を行った。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群18 あがつま農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況5,421a⇒目標5,421a	5,421	5,421	・野菜：次期作に向けて、灌水装置の利用を行い品質の安定を行う。また、産地で推奨する資材、段ボール等の利用で出荷の統一を実施した。 ・果樹：次期作に向けて、県奨励品種を取り入れ産地にあった農薬の導入・利用を推進した。 ・花卉：次期作に向けて、施設栽培を行っているスプレー菊では、需用者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、適切な温度管理や灌水機能の充実等により品質の向上を推進する。また、栽培面ではスプレー菊の品質向上に要する資材の導入に資する取組みとして産地等で推奨する肥料、資材等を導入し、土づくり対策等作柄安定に資する取組みとして土壌分析を実施した。 ・こんにやくいも：次期作に向けて品質安定を目的とした土壌消毒を徹底し、安定供給出来るよう出荷を実現した。	対象品目である野菜・花き・蒟蒻の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

群馬県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
群19 渋川市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現20,169a⇒目標20,356a	20,169	20,356	・野菜：次期作に向けて、時期ごとの品種選定と産地で戦略的に推進する高品質で低価格な肥料、農薬及び被覆資材の利用を推進。JAで貸し出している農業用機械の利用を推進し、省力化によるコスト低減と安定生産を行った。 ・花き：次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を導入した。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群20 利根沼田農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現51.96a⇒目標51.96a	51.96	52.14	・次期作に向けて、花卉・野菜では実需者ニーズに即した新たな品種を導入する。花卉、特にバラ等では安定生産のために加温装置の導入・利用を推進する。また花卉・野菜・果樹ともに産地で推奨する肥料や農薬の利用を推進する。 ・蒟蒻では、高品質で安定的な生産に向け土壌消毒剤（キルバー）の利用や大型トラクターの導入を行う。	対象品目である花き・野菜・果樹・蒟蒻の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
群21 碓氷安中農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現1,633a⇒目標1,633a	1,633	1,633	・次期作に向けて省力化する人件費削減を図る為、引き続き収穫時の収穫機利用を推進する。 ・当管内で推奨している品種の栽培を推進し、JAや指導機関等で策定した農薬を使用し良品栽培を図ることを推進する。 ・当管内で推奨している品種の栽培や梱包資材を使用し集出荷経費の削減することを推進する。	対象品目である蒟蒻・梅・野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
群22 みなかみ町地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現657a⇒目標660a	657	657	・野菜：作業員の安全管理講習の受講や需要が高い早生品種の導入に取り組んだ。 ・果樹：堆肥の投入や生産性向上に向けた肥料、農薬の導入に取り組んだ。 ・こんにゃく：機械化体系の見直しを行うほか、土壌改良材の施用などに取り組んだ。	対象作物である野菜・果樹・こんにゃくにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
群23 前橋市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現19,817a⇒目標19,900a	19,817	19,817	・次期作に向けて、土壌分析を積極的に行い省力化によるコスト低減と安定生産を図り、品目毎に推奨する肥料と防除日誌を基にした農薬の使用を推進するとともに労働安全確認として農作業・農業機械の安全講習の受講を推進する。 ・実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のためにかん水装置の導入・利用、被害防止技術の導入として二重張カーテンの利用を推進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
群24 新田みどり農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現18,288a⇒目標18,288a	18,288	18,288	・野菜：次期作に向けて、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、動力噴霧器やトラクターなどの機械装置の導入を行う。また、生産物の品質向上の為、新たな資材の導入を行い、レタス生産者については今年度 GlobalG. A.P. を取得する。 ・花き：次期作にむけて、花壇苗と球根類で実需者ニーズに即した品種を重点的に生産する。また生産物の品質向上の為、施肥、防除の適正使用を遵守する。施設内においても防虫ネットなど被害防止技術の導入を検討する。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

群馬県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
群 25 多野藤岡地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現3,702a⇒目標3,702a	3,702	3,859	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜：次期作に向けて、ネギでは、安定生産を図るための品種の導入や品質向上のための肥料等の導入・利用を推進する。 ・花き：次期作に向けて、シンビジュームや花壇苗では、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のための肥料等の導入・利用を推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって高品質な花きの出荷の取組を行う。 	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

埼玉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
埼01 所沢市農業再生協議会	令和2年度	生産性・品質の向上等に資する取組を展開することにより、対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 2,186.1a ⇒ 目標 2,186.1a	2,186.1	2,186.1	次期作に向けて安全講習会を受講することで、生産者一人ひとりに安全対策の意識を高めてもらい、農業機械操作の事故発生の軽減を図るとともに、生産性・品質向上に資する肥料・農薬等の導入、利用する取組等を推進した。	対象品目である野菜・茶・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
埼02 入間市茶業協会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 15,021a ⇒ 目標 15,021a	15,021	15,021	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、売上げが見込める5月の新茶シーズンと緊急事態宣言が重なったことによる新茶の販売不振に加えて、営業を自粛した販売店などと取引のある生産者や葬儀の減少や帰省の自粛等により売り上げが減少した。次期作に向けて、高収益作物の安定供給は必須であることから、土づくり等を徹底することにより、生産体制の強化を実現する。また、機械化体系や大型コンテナなどを導入し、生産・流通コストの削減を推進する。	対象品目である茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
埼03 くまがや農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 81.60ha(8,160.2a) ⇒ 目標 85ha(8,500a)	8,160.2	10,284.2	次期作に向けて、安定して高品質な青果物を栽培生産するために、追肥肥料、土壌改良資材の導入、利用を推進する。また、JGAPの取組として、生産現場の農場管理を適切に行い、青果物を安全に生産できる体制を推進する。	対象品目である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼04 川越地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 1268.5a ⇒ 目標 1269a	1,268.5	1,288.5	花き農家・茶農家について、機械化体系の導入や産地等で推奨する品目の栽培など、次期作に前向きに取り組んだ。	対象品目である花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼05 三芳町高収益作物次期作支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 3,358a ⇒ 目標 3,392a	3,358	3,401	1. 野菜 次期作に向けて、根菜類を中心とする播種から収穫、集出荷における機械化体系の導入により生産・流通コストの削減が図られた。 またサツマイモを中心に落ち葉堆肥を活用した土壌改良を実施し作柄安定に資する取組を推進した。 2. 花き 次期作に向けて産地等で推奨する品目(胡蝶蘭)の導入により生産性および品質の向上が図られた。(埼玉県洋蘭生産者組合推奨品目) 3. 茶 次期作に向けて適採機・管理機等、機械化体系の導入により生産・流通コストの削減が図られた。	対象品目である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

埼玉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
埼06 さいたま農業協同組合 (中部統括部)	令和2年度	生産性・品質の向上等に資する取組を展開することにより、対象品目の作付面積が令和3年度末に現状維持となること 現況 1,948.5a ⇒ 目標 1,948.5a	1,948.5	2,230.8	次期作に向けて、実需者ニーズに的確に対応し、より高品質な産物を提供できるよう実施していった。特に土壌改善や推奨肥料の導入を図り、時間短縮に適した機器導入の取組をした。また、品質向上のために、営農指導員による講習会等に参加をしてアドバイスを受け、土壌改善など適切に対応していった。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼07 さいたま農業協同組合 (南部統括部)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 605.1a ⇒ 目標 605.1a	605.1	605.1	次期作に向けて、苗木とポット花共に顧客ニーズに合う新たな高収益の商品や推奨作物を導入するとともに、その推進を行った。品質向上の土壌改良材や新しい農薬の使用、また長期間効果のある肥料を使用してコスト低減と省力化を行いつつ生産効率を図る。	対象品目である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
埼08 さいたま農業協同組合 (北部統括部)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 2,076.8a ⇒ 目標 2076.8a	2,076.8	2,126.8	次期作に向けて産地等で推奨する品目又は肥料・農薬等の資材の導入、利用を推進し、コスト低減と省力化を行いつつ生産効率の向上を図った。	対象品目である花き・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼09 埼玉中央農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上とする。 現況 1,314.9a ⇒ 目標 1,314.9a	1,314.9	1,495.4	1. 野菜 省力化によるコスト低減と安定生産を図る。産地で戦略的に推進する肥料・農薬の利用を推進する。管内では様々な野菜を作付けているが、実需者のニーズに即した新たな品種を導入する。 2. 花き 実需者のニーズに即した新たな品種を導入するとともに、厳選出荷の取組みとして、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方法を関係者全員で共有する。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼10 埼玉みずほ農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 2,662a ⇒ 目標 3,300a	2,662	3,068	1. 野菜 次期作に向けて、きゅうり等の野菜全般において、高品質作物への資材として地域で戦略的に土壌改良剤及び土壌消毒剤等の導入・利用を推進した。 2. 花き 次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、安定生産のために土壌改良剤の導入・利用を推進した。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
埼11 埼玉岡部農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 129ha(12,970a) ⇒ 目標 131ha(13,100a)	12,970	13,100	次期作に向けて産地では、品質向上のために、土壌改良材の導入、利用を推進した。また、農作業の安全向上を目的とした安全講習を行った。	対象品目である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

埼玉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
埼 12 秩父地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 1940.7a ⇒ 目標 2,000a	1,940.7	2,539.7	1. 野菜 次期作に向けて、農作業安全講習会を開催し、農作業への安全意識の向上を図った。 いちごでは、物理的な作用により効果を示す農薬の利用を推進した。また、きゅうりでは、部会として規格統一や物流の合理化を図るため、梱包資材の利用を推進した。 2. 果樹 次期作に向けて、農作業安全講習会を開催し、農作業への安全意識の向上を図った。 ぶどうでは、品質向上のため効率的病害虫防除の実施を推進した。 3. 花き 次期作に向けて、新たな品種を導入するとともに、肥効の高い肥料の導入を推進した。	対象品目である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼 13 いるま野農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 277ha (27,725a) ⇒ 目標 277ha (27,725a)	27,725	28,070	1. 野菜 次期作に向けて、生産性及び品質向上に要する資材等（産地推奨品種、かん水装置 他）の導入・利用と土づくり、排水対策（堆肥・土壌改良資材、土壌消毒、排水対策（溝切、明渠）他）の作柄安定に資する取組を図り安定生産に努めた。また、農作業安全啓発動画の視聴による労働安全確認を実施し、農作業事故防止を推進した。 2. 花き 次期作に向けて、切花（金魚草、トルコキキョウ 他）、鉢物（バンジー、ピオラ、マリーゴールド 他）では、実需者ニーズに即した産地推奨品種を栽培するとともに、安定生産のために加温装置、かん水装置の導入・利用に取り組む。 3. 茶 次期作に向けて、生産・流通コストの削減に取組む機械化体系に資する摘採機 等の導入・利用に取り組む。 防霜ファンの利用による被害防止を図り、安定生産、品質向上等に取り組む。また、農作業安全啓発動画の視聴による労働安全確認を実施し、農作業事故防止を推進した。	対象品目である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼 14 ほくさい農業協同組合	令和2年度	対象品目について、生産体制の強化に資する取組を展開することにより、事業実施地区の対象品目である野菜・花きの現況面積が減少維持していること。 現況 5735.3a ⇒ 目標 5735.3a	5,735.3	6,145.7	野菜 ①産地で推奨する品種及び肥料・農薬等の導入を推進。②土壌分析等を実施し、適正な施肥管理を推進。 ③衛生管理者等による安全講習会を実施し安全への意識向上を推進。 花き 産地で推奨する品種・肥料・農薬等の導入、及び品質管理や増収に向けた加温装置・かん水装置の利用を推進。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された。
埼 15 越谷市地域農業振興協議会	令和2年度	品目や資材の導入等による取組の実施により生産体制の強化を図り、現況面積を増加させる。 現況 9.4ha (939.3a) ⇒ 目標 9.7ha (970a)	939.3	940	管内は、こまつな、ねぎ、いちご、えだまめ等を中心とした産地であり、野菜は売上減少し、いちごは観光農園を主としているため来客数は減少した。花卉（切花）についてもイベント等自粛により消費が減退している。 そのため、品目や生産資材導入を行い生産量増や品質向上を図る取組や、継続した生産を行える環境づくりを目的とした作業環境の改善に資する取組を中心に推進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

埼玉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
埼16 あさか野農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 1187.4a ⇒ 目標 1187.4a	1,187.4	1,187.4	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために内張りカーテンの導入・利用を推進する。 また、内張りカーテンに加え、加温装置・灌水装置の利用により更なる安定生産・品質向上に資する取り組みを推進する。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
埼17 さいかつ農業協同組合	令和2年度	現況 457.5a ⇒ 目標 457.5a	457.5	508.5	次期作に向けて、ネギ・小松菜・枝豆・ブロッコリー等および直売用野菜においては、安定生産を図るために土壌診断による適切な施肥管理を推進。また地力増進のための土づくり資材としてのアゾミン等の投入を進める。また切り花等では実需者ニーズに合った品種・品目を導入するとともに土壌診断による適切な施肥管理を推進する。	対象品目である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼18 狭山市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 2,917a ⇒ 目標 2,920a	2,917	3,031	1. 花き 次期作に向けて、マリーゴールドやストックなどの花き苗の安定栽培が続けられるようビニールハウスでの暖房設備やかん水装置の利用を推進した。また、次期作においても消費者のニーズに合わせた産地推奨の品目を引き続き栽培した。 2. 茶 次期作に向けて、品質の向上や安定生産に向けて、苦土石灰等による土壌改良や適切な防除として産地が推奨している農薬の使用を推進した。摘採のために乗用型機械や可搬型機械を使用するため、安全講習を実施し、安全意識を高めることで農業事故を防ぎ、持続的に茶の栽培を続けていけるよう図った。	対象品目である花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼19 花園農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 933a ⇒ 目標 950a	933	900	野菜 次期作に向けて、ブロッコリー・ネギ等の産地で品質向上のための肥料、農薬を推進する。 花き 次期作に向けて、花鉢物、苗木等の実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、産地で品質向上のため土壌改良材・肥料、農薬を推進する。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積を維持できていないため指導
埼20 南彩農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 3929.4a ⇒ 目標 4057.4a	3,929.4	4,828.4	1・野菜：次期作に向けて、管内では、長ネギを始め、施設野菜（小松菜、胡瓜、苺）及び露地野菜（ほうれん草やカキ菜、長ネギ）等で省力化による肥料代の低減と安定生産を図るため、産地で推奨する肥料、堆肥等を施肥設計に基づき施用するとともに、作業環境の改善に必要な安全講習会などを開催した。 2・花き： 1) 岩槻地区では、次期作に向けて、ストック、パンジーなどの実需者ニーズに即した品種を安定的に出荷できるように、産地で推奨する肥料等を用いて栽培を実施した。2) 蓮田地区では、次期作に向けて、洋ランの栽培をしているが、実需者ニーズに即した品種を安定的に出荷できるように、かん水装置等を用いて栽培を実施した。3) 白岡地区では、次期作に向けて、ラン、鉢物などの実需者ニーズに即した品種を安定的に出荷できるように、肥料及び農薬を用いて栽培を実施した。4) 久喜地区では、次期作に向けて、ハンネマニア、ルピナス、バラ、ラナンキュラス、カトレア、パンジー、シクラメンなどの実需者ニーズに即した品種を安定的に出荷できるように、産地で推奨する肥料・農薬の使用やかん水装置等を用いて栽培を実施した。 3・茶：次期作に向けて、産地で推奨する肥料及び農薬の適正使用の他、機械化を進める中で、従業員に対する作業安全の観点から、安全講習会への参加も行った。	対象品目である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

埼玉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
埼玉21 埼玉ひびきの農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況 381ha(38,159a) ⇒ 目標 381ha(38,159a)	38,159	38,159	次期作に向け、野菜については生産性向上や土づくりのため、産地で戦略的に導入している資材の使用・施用を図るとともに、安全講習会を実施する。また、花き、施設花きについては産地や部会で導入している資材の使用・施用を図るとともに、産地で戦略的に推奨する種苗の導入を実施する。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
埼玉22 ふかや農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 594ha(59,460a) ⇒ 目標 594ha(59,460a)	59,460	72,362	次期作に向けて、労働安全講習会の開催による農作業安全の徹底と土壌改良剤の導入や土壌診断結果に基づく肥料等による一定品質の安定生産を図るとともに、市場ニーズの高い品目・品種の導入を進める。また、厳選出荷の取組として市場動向に対応する方針を生産者間で共有し、出荷量調整を行う。	対象品目である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
埼玉23 彩の国次期作支援会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 970a ⇒ 目標 970a	970	970	新型コロナウイルス感染症の発生による影響を受けた彩の国次期作支援会各支部会員の圃場において、次期作における集出荷経費の削減に資する大型コンテナ、通い容器、産地等で推奨する梱包資材（段ボール）等の導入・利用や労働安全事項（農作業安全チェックを実施）を確認し、国内外の新たな需要等に対応した。 また、取組実施者に対して本事業の実施等に必要事項を周知徹底し、対策の適正な実施をするための指導及び事務並びに取組実施者から提出された申請書等の確認、取りまとめ、取組実施者に対する交付金の交付等を行った。	対象品目である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された。

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

千葉県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
千01 丸新緑化組合	令和2年度	丸新緑化組合 現状 2,678a⇒目標 2,678a	2,678	2,678	次期作に向けて、組合員各位が新型コロナ感染症拡大時でも適期作業、適期収穫等品質、販売を維持継続できるように、省力化・省人化の為の機械体系環境整備を行い、当組合と県等農業指導機関等と栽培情報、栽培方法等を共有し、組合で戦略的に推進する肥料、農薬及び被覆資材の導入・利用推進を行う。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
千02 市原市農業再生協議会	令和2年度	対象品目について、生産体制の強化等に資する取組を実施することにより、事業実施地区の対象品目の作付け面積が増加または維持すること 現況115a⇒目標115a	115	115	野菜等の高収益作物について、令和2年2月から4月の間に出荷実績があり、売り上げが著しく減少した農業者を対象に、次期作に係る生産の取組に対し支援を実施する。 (三和・市津・姉崎地区) トマト、イチゴ等の施設園芸において、次期作に向けて、集出荷資材の共同購入や、当地域で推進する肥料、農薬、堆肥の利用推進の取組について支援する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
千03 公益社団法人千葉県園芸協会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 165,101 a ⇒ 目標 165,102 a	165,101	166,413	1. 野菜・果樹 次期作に向けて、産地等で推奨する肥料等の利用を進め、需要に応じた高品質で安全なものを生産する。 また、安全講習会の受講等により、作業環境の改善に資する。 2. 花き 次期作に向けて、産地等で推奨する品目・品種の栽培や、かん水装置の利用等を進め、生産性又は品質向上に要する資材等の導入を図る。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

東京都

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
東01 ワタミファーム次期作支援 部会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現況5,423a⇒目標 5,423a	5,423	5,423	新型コロナウイルス感染症の発生による影響を受けたワタミ ファーム次期作支援部会各部会員の圃場において、次期作におけ る集出荷経費の削減に資する大型コンテナ、通い容器、産地等で 推奨する梱包資材（段ボール）等の導入・利用や労働安全事項（農 作業安全チェックを実施）を確認したことにより、国内外の新たな 需要等に対応していくこととした。	対象作物である野菜の 作付面積は計画時から 維持されており、目標 は達成された
東02 東京むさし農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状1113.9a⇒目標 1113.9a	1,113.9	1,113.9	次期作に向けて、①野菜 プロッコリー、人参、里芋の安定生産 を図る為、優良有機堆肥や産地推進肥料の導入、利用を促進し た。②花壇苗 推奨品目かつ消費者ニーズの高い品目を導入する とともに安定生産の為、肥料・農薬・資材の導入、利用を促進し た。 ③切花 消費者ニーズが安定している品目を導入し安定生産を図 る為、推奨の肥料・資材の導入、利用を促進した。 ④花木 都の推奨品種や新品種・消費者ニーズの高い品目を導入 し安定生産の為、推奨品種及び肥料・農薬・資材の導入、利用を 促進した。	対象作物である野菜・ 花きの作付面積は計画 時から維持されてお り、目標は達成された
東03 秋川農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状58a⇒目標58a	58	58	次期作に向けて、切花のユリ、ルリタマアザミ、カンパニユ ラ・花苗のパンジー、ペコニア、ガーデンシクラメンは実需者 ニーズに即した品種を導入するとともに、安定生産のため灌水装 置の利用を推進した。	対象作物である花きの 作付面積は計画時から 維持されており、目標 は達成された
東04 東京あおば農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状90a⇒目標90a	90	90	次期作に向けて、継続的な安定生産を目指し、適正な肥培管理や 病虫害被害低減の為の適宜防除を実施し、実需者ニーズに即した 花の生産に取り組み、また、近年の状況を鑑みると恒常的な夏季 の猛暑が見込まれるため、夏場の灌水作業や栽培施設の換気等を 適切に行い、より高品質な花の生産に努めた。 さらに、夏に強い品種など、新たな種類の花苗・鉢花作りにも積 極的に取り組み、今後の花卉生産力向上を図った。	対象作物である花きの 作付面積は計画時から 維持されており、目標 は達成された
東05 東京みどり農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現況853a⇒目標860a	853	863	次期作に向けて、省力化によるコスト低減や生産の安定性を図る ため、有機肥料や資材及び今まで取り入れていなかった品種など の導入を行い、安定した生産を目指した。	対象作物である野菜・ 果樹・茶・花きの作付 面積は計画時より増加 しており、目標は達成 された
東06 西多摩農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現況677.95a⇒目標678a	677.95	677.95	茶においては、次期作に向けて、茶の品質向上を図るため、機械 化体系を導入し、乗用型摘採機の利用やハンディバリカンによる 剪定を行った。また茶の安定生産を図るため、肥料及び農薬を導入 した。 花卉（鉢花、花壇苗）においては、次期作に向けて、花卉の品質 向上・安定生産のために肥料及び農薬を導入した。鉢花（サイネ リア）においては、取引先のニーズに即した新たな品種を導入し た。花壇苗においては土壌消毒機導入により土壌の均質化、害虫 発生予防、雑草予防を行い、高品質な花卉生産に取り組んだ。	対象作物である茶・花 きにおいて、成果目標 には至っていないもの の、成果目標値は目標 設定時に行った端数処 理による設定値であ り、作付面積は計画時 の面積を維持している ため指導しない

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

東京都

東
07

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
東京スマイル農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況448.6a⇒目標467.6a	448.6	445.3	1. 野菜 次期作に向け、小松菜では、品質向上と安定生産を図るため、実需者ニーズに即し種子・農薬・資材の購入、それに伴う播種・施肥・農薬散布を実施し、天地返し・浅耕等の耕うんなどの土壌改良に取組んだ。 2. 花卉 次期作に向け、飾り花、夏菊では、実需者ニーズに即し、生産体制の強化、品質向上に向け、播種・農薬散布に取組んだ。	対象作物である野菜・花きにおいて、取組実施者に不測の事態が発生したため事業実施主体に責務を負わせられないことから指導しない

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

神奈川県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
神01 厚木市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 473 a ⇒ 目標 473 a	473	551	1. 野菜 次期作に向け、地域の生産者が各ほ場で土壌診断を行い、不足する成分について土壌改良資材や肥料を導入し補うことで、生産性の向上と品質の向上を推進する。また、作業環境改善に資する取組として、農協が作成した農作業安全対策テキストを使い、事故防止のための対策を確認する。 2. 花き 次期作に向けて、カーネーションやクレマチス等では、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、生産性の向上と品質の向上のため、土壌診断を行い、不足する成分について土壌改良材等の導入を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
神02 秦野市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況1,540a→ 目標1,540a	1,540	1,540	【花き】 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、通い容器の利用による集出荷経費の削減等に取り組む。 【茶】 次期作に向けて、高品質化を図るため土壌診断を実施するとともに、安全講習会の受講により作業環境の改善に取り組む。	対象作物である花き・茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神03 よこすか葉山農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 264 a ⇒ 目標 264 a	264	264	【野菜】 次期作に向けて、労働安全講習会（DVDによる）を実施し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、いちごでは、産地で戦略的に推進する肥料等の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神04 伊勢原市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状143.1 a ⇒ 目標 143.1 a	143.1	143.1	1. 花き 次期作に向けて、花きでは、市場のニーズに即した高集約型品目の導入の他に安定生産に向けた、土壌分析や土壌消毒などの取り組みを推進する。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神05 三浦市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 6,404 a ⇒ 目標 6,404 a	6,404	6,404	・野菜 次期作に向けて、機械化による省力化、人件費削減、耐病性に優れた品種の導入、産地で推奨する堆肥ペレットの導入を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神06 横浜農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 42 a ⇒ 目標 42 a	42	42	・花き 市場や実需者、消費者のニーズを踏まえ品目・品種の導入を行う。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

神奈川県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
神07 湘南地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状339.1a → 目標339.1a	339.1	339.1	・花き 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のため、土壌診断やカーテンの導入を行う。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神08 セレサ川崎農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 220a ⇒ 目標 220a	220	220	①野菜に関しては、新型コロナウイルスの影響に打ち勝つため生産性向上・品質向上のためにいちご・ミニトマト・ナス・ピーマンを中心に肥料・農薬の導入等に積極的に取り組む。 ②花卉に関しては、新型コロナウイルスの影響が比較的大きかったため、生産基盤の維持・生産拡大・品質向上のために資材の導入・作業環境の改善に取り組む。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神09 かながわ西湘農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 【野菜・花き】 現況 219a ⇒ 目標 219a 【花き】 現況 288a ⇒ 目標 288a 【茶】 現況 5,331a ⇒ 目標 5,331a 計 5,838a	【野菜・花き】 219a 【花き】288a 【茶】5,331a 5,838	【野菜・花き】 219a 【花き】288a 【茶】5,154a 5,661	1. 施設野菜 次期作に向けて、品質及び安定した生産を図るため、土づくり・排水対策等として堆肥投入や土壌消毒等を実施し作柄安定に取組んだ。 2. 花き 次期作に向けて、消費者や実需者ニーズに即した品目・品種の栽培を図り、安定生産や品質維持のため、効果的な肥料・土壌改良対策に取組んだ。 3. 茶 次期作に向けて、品質向上や経費削減を目指し、農薬散布時の機能性展着剤の活用や堆肥投入による地力増進、農作業安全対策に取組んだ。	対象作物である野菜・花き・茶において、取組実施者に不測の事態が発生したため事業実施主体に責務を負わせられないことから指導しない
神10 神奈川県つくい農業協同組	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状254a ⇒ 目標266a	254	254	・茶 次期作に向けて農作業安全講習会を受講し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、新たな農薬・堆肥導入を地域生産者一体となって取り組む。	対象作物である茶において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

神奈川県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
神11 愛川町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況1,148a⇒ 目標1,247a	1,148	1,276	1. 野菜 次期作に向けて、農作業の省力化によるコスト低減と安定生産を図るために機械化の推進や、付加価値向上を目的とした有機JAS認証の取り組みを支援する。 2. 花き 花き農家の生産基盤を維持・拡大するため、生産性または品質向上に要する資材等の導入に資する取り組み等を推進する。 3. 茶 次年度の栽培に向け、施肥作業については慣行栽培から一発肥料へ変更することで、従来は年間6回の施肥作業を1回に短縮し作業の効率化を図るとともに、従来の施肥の作業時間を防除作業や土壌改良等に注力して茶葉の品質向上に努める。 また、機械による作業が多いことから、機械操作についての安全講習会を開く。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
神12 さがみ農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 5.720a ⇒ 目標 5.720a	5,720	5,720	【野菜、果樹、花き】 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、土壌分析の実施や土壌消毒等により、安定生産や高品質栽培を推進する。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
神13 チャピュア清川	令和2年度	現状 生葉29,500kg ⇒ 目標 生葉33,500kg	976a (参考) 生葉 (kg) 29,500	976a (参考) 生葉 (kg) 29,164.4	【茶】 ・次期作に向け、省力化による労力低減と品質、生産量の向上を図るため、肥効の長い肥料を導入し施肥回数の減少を推進する。 ・作業者が高齢のため、茶園管理・機械作業の効率化・安全性を図るため講習会を開く。	対象作物である茶において、計画時の生産数量を維持できていないため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

山梨県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
山01 山梨県水田畑作農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況：475.46a → 目標：475.46a	475.46	485.5	次期作においては、市場においてはより高品質に、小売店においてはより安定的に生産することが求められることと想定されることから各作目ごとに以下の取組を行う。 ○果樹 ・地域の奨励品種を積極的に栽培していくとともに、産地で奨励する肥料・農薬・資材の利用を促進し、高品質な果樹を生産する。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、土壌改良・排水対策の実施により、果樹の安定生産を図る。 ・施設においては、よりきめ細かい灌水管理や温度管理を実施し、高品質化を促進する。 ○野菜 ・地域の奨励品種を積極的に栽培していくとともに、産地で奨励する肥料・農薬・資材の利用を促進し、高品質な野菜を生産する。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、土壌改良・排水対策の実施により、野菜の安定生産を努める。 ・機械化や貯蔵施設の利用により生産コストの削減や高品質化に努める。 ○花き ・実需者ニーズに即した品目・品種を積極的に栽培していくとともに、産地等で奨励する肥料・農薬・資材の利用、灌水装置等の利用を推進し、高品質な花きを生産する。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、土壌改良・排水対策の実施により、花きの安定生産に努める。	対象作物である果樹・野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
山02 フルーツ山梨農業協同組合	令和2年度	全体的に農業者の高齢化により作付面積は減少傾向にあるが、対象品目については、生産体制の強化や需要に多雨王した取組が進展することにより、令和3年度末に事業実施地区の対象品目の作付面積を維持する。 現況：2,977.2a → 目標：2,977.2a	2,977.2	2,977.2	次期作に向けて、市場においては高品質であること、スーパーにおいては安定的に生産することが求められている。果樹・野菜、花きの作目毎、地域において推奨される品種を積極的に栽培していくとともに、産地で推奨する肥料・農薬・資材を利用した高品質な品物を生産。土壌分析の実施や堆肥を適正利用し、土壌改良・排水対策の実施、加温、かん水施設の利用により安定生産に努める。	対象作物である果樹・野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
山03 富士吉田市地域農業再生協議会	令和2年度	農業者の高齢化により休耕農地が増加傾向にあるが、対象品目については消費者ニーズに対応した品種の作付けや土壌改良による安定供給、需要拡大を目指した取り組みが進展することにより事業実施地区の対象品目の作付けを維持する。 現況：10a → 目標：10a	10	10	トマト、クレソンを中心に産地として推奨する肥料・農薬等や被害防止技術の導入を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

山梨県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
山04 北杜市農業再生協議会	令和2年度	全体的に農業者の高齢化により作付面積は減少傾向にあるが、対象品目については、生産体制農強化や需要に対応した取組が進展することにより、事業実施地区の対象品目の作付面積を維持する。 現況：153.6a → 目標：153.6a	153.6	111.9	次期作においては、市場においてはより高品質であること、スーパーにおいては安定的に生産することが求められると想定されることから、各作目ごとに以下の取組を行った。 ○野菜 ・地域において推奨される品種を積極的に栽培していくとともに、産地推奨する肥料・農薬・資材の利用を推進し、高品質な野菜を生産した。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、土壌改良・排水対策の実施により、野菜の安定生産に努めた。 ○花き ・地域において推奨される品種を積極的に栽培していくとともに、産地で推奨する肥料・農薬・資材の利用を推進し、高品質な野菜を生産した。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、土壌改良・排水対策の実施により、野菜の安定生産に努めた。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積を維持できていないため指導
山05 南アルプス市農業協同組合	令和2年度	現況：20a → 目標：20a	20	20	次期作においては、市場においてより高品質であること、スーパーにおいては安定的に生産することが求められると想定されることから、以下の取組を行った。 ・共選を実施し、集出荷経費の削減を行った。 ・産地で推奨する肥料・農薬の利用を促進し、高品質な果実の生産をした。 ・土壌分析の実施や堆肥の適正利用を推進し、果樹の安定生産に努めた。	対象作物である果樹の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
山06 笛吹農業協同組合	令和2年度	全体に農業者の高齢化が進み作付面積は減少傾向にある。対象品目については、生産体制の強化や需要に対する取組を見直す事により、事業実施地区の対象品目の作付面積を維持した。 現況：15.7ha (1,565a) → 目標：15.7ha (1,565a)	1,565	1,565	・品目、品種等の導入を行った。 ・肥料、農薬等の導入を行った。 ・土壌改良、排水対策の実施を行った。 ・セット動噴やカーテンフィルム、換気扇の導入を行った。 ・取り決めに基づき、高品質な花等を生産した。	対象作物である果樹・野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
山07 南アルプス市地域農業再生協議会	令和2年度	全体的に農業者の高齢化などにより作付面積は減少傾向にあつが、対象品目については、生産体制の強化や需要に対応した取組が進展することにより、事業実施地区の対象品目の作付面積を維持する。 現況：607.4a → 目標：607.4a	607.4	607.4	・野菜 産地の推奨品目であるトマト、キュウリを中心に機械利用などによる生産コストの削減を行う ・おうとう（観光農園） 産地推奨の肥料などを導入し、より高品質な作物の育成を行う。 ・花き 実需者ニーズに即した品種の導入及び安定生産のための加温装置や空調装置等の利用を行う。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

山梨県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
山08 梨北農業協同組合	令和2年度	現況：508.6 a → 目標：550 a	508.6	523.6	野菜に関しては、産地で推奨される堆肥等の導入による安定栽培の実施や、マルチ資材導入による防除回数の削減を実施。 花きに関しては、堆肥施用による地力の底上げ及び露地から施設栽培への切り替えによる気候に左右されない栽培方法への転換の実施。	対象作物である野菜・花きにおいて、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
山09 都留市地域農業再生協議会	令和2年度	農家の営農意欲の減退防止及び農業所得の確保に資するため、令和3年度末に市内の高収益作物の作付面積の維持を目指す。 現況：194a → 目標：194a	194	194	新型コロナウイルス感染症の発生により、売上の減少等の影響を受けた市内の農家に対して、次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催する中で、農作業時の安全確保に資する取り組みを展開することに加えて、産地で戦略的に推進する肥料及び農薬等の導入利用を図ることとする。 【野菜（自然薯）】 労働安全講習会を開催する中で、農作業安全の取り組みを進めることに加えて、産地で戦略的に推進する肥料、農薬等の導入及び利用を推進する。 【野菜（わさび）】 産地で推奨する品種の栽培を継続し、土壌改良及び排水対策に資するためには場内の天地返しを実施する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
山10 山梨みらい農業協同組合	令和2年度	現況：12ha (1,264.5a) → 目標：12ha (1,264.5a)	1,264.5	1,180	1. 野菜 次期作に向けて、施設トマト・キュウリ・ナス・スイートコーン・イチゴでは、奨励品種を定め、各品目で播種時期や防除基準を設けて、産地で戦略的に推奨する肥料、農薬及び被覆資材の導入・利用を推進する。 2. 果樹 次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農産安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、ブドウ・モモ・スモモ等の品目では、産地で戦略的に推奨する肥料及び農薬の導入・利用を推進する。 3. 花き 次期作に向けて、ラン等の品目では、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のためにLED照明装置の導入・利用を推進する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求められる品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって長期保管による品質保持・出荷調整ができるよう冷蔵貯蔵庫の導入・共同利用を推進する。 4. 茶 次期作に向けて、輸向け有機てん茶の供給量を増加するため有機栽培への転換を行うとともに、機械化体系に資する摘採機・中切り機等の導入・利用を推進した。	対象作物である野菜・果樹・花き・茶において、計画時の現況面積を維持できていないため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長01 山形村農業再生協議会	令和2年度	村内の野菜、果樹、花きの作付け面積が令和3年度末に現況以上になること。 現況82ha(8,193a)⇒目標84ha(8,400a)	8,193	8,526	1. 農薬の導入:JAの防除暦や長野県病害虫・雑草防除基準防除暦を参考として、次期作に向けて産地で戦略的に利用する農薬の導入を推進。 2. 農業機械の点検:農作業安全徹底のため、農業機械の点検チェックシートを配布し農業者を実施してもらうことで、点検漏れに起因する農業事故を防ぐとともに農作業安全の意識改革に取り組む。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長02 原村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況1,840a⇒目標1,840a	1,840	1,840	1. 野菜:次期作に向けて、ブロッコリー、ホウレン草等では、生産性又は品質向上と安定生産を図るため、産地で推奨する品目や品種の栽培を行うとともに、産地で推奨する農薬及び肥料の導入・利用を推進する。 2. 花き: 次期作に向けて、トルコキキョウ、アネモネ等では、産地で推奨する品目や品種の栽培を導入するとともに、産地で推奨する農薬及び肥料の導入・利用を推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって品質保持ができるよう芽かき・摘花・整枝を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長03 塩尻市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況45.5ha(4,549a)⇒目標48ha(4,800a)	4,549	4,810	作柄安定に向けた土壌改良・排水対策の実施を推進する。また、品目横断的な労働安全講習会の開催や、JAによる事業継続計画の策定を通して、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、緊急事態時においても、産地として食料の安定供給等を担う。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長04 辰野町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況30a⇒目標50a	30	102.5	省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、JAによる事業指導を受け適切な時期の作付や堆肥の投入により、戦略的に栽培を実施した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長05 佐久穂町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況2.656ha(265.6a)⇒目標2.656ha(265.6a)	265.6	328.2	花卉においては、引き続きJAと協力しながら町の推奨する特産品として振興し、実需者のニーズを踏まえ、種苗の更新を行いながら現在の栽培面積を維持又は増加させていくとともに、安定生産のため、加温装置、かん水装置の導入・利用を推進する。 野菜については、新品種の導入試験の他、多品目との輪作体系を確立することにより複合的な増産を行う。又、生協等野菜の宅配サービスのニーズが高まっているため、有機農家においては、次期作に向けて販売方法の見直しやニーズを踏まえた良質の野菜を生産していくとともに、コスト削減に向けた効率的な栽培を行っていく。	対象作物である花き・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長06 高山村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が、令和3年度末に現況面積以上となること。 現況141.88a⇒目標170a	141.88	182.33	1 野菜(ハーブ):次期作に向けて、肥料や農薬を導入するとともに土壌改良剤を使用。 2 果樹:次期作に向けて、肥料や農薬を導入するとともに、産地で推奨する梱包材の使用や、総合的病害虫管理などに取り組む。	対象作物である野菜・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長07 グリーン長野農業協同組合	令和2年度	実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上になること 現況6.2ha(611a) ⇒ 目標7ha(700a)	611	759	野菜類は、新型コロナ発生以降も生活必需品であることから消費の回復を期待し、生産者が意欲を持って直売所及び市場流通向けの生産を行い、土壌改良資材及び機械の導入、苗の定植機の導入で作業の効率化を図り栽培面積の維持拡大を図った。 花きは、実需者ニーズに即した配色バランスや品目品種を導入すると共に、安定生産の為、土壌診断の実施により堆肥を中心とした減肥生産を行い、生産コスト低減と気象変動の大きい年が続いていることから定期防除の実施と出荷時に共通段ボールを使用しコスト削減に努めた。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長08 長野市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況22.0a⇒目標22.0a	22	22	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、産地等で推奨する梱包資材の導入や安定生産のために土壌改良等を推進した。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長09 木曾郡農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況0.53ha(53a)⇒目標0.53ha(53a)	53	53	次期作に向けて、実需者のニーズに即した品種を導入するとともに、ハウス防風ネットの導入により安定生産を図った。 また、品質安定・収量の確保をするために全ハウス土壌検査を実施した。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長10 山ノ内町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況1.02ha(102a)⇒目標1.1ha(110a)	102	112	1. 野菜：次期作に向けて、施設栽培きのこでは低コスト低減を図るため、低コスト段ボールの導入を推進した。また、安定生産のため長野県の推進する品種の導入とともに、計画生産、計画販売をした。 2. 花き：計画的な株の更新や優良品種の導入による計画生産のほか、品種の分散による出荷時期の拡大、集中出荷の回避による計画販売を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長 11 ながの農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 21.7ha(2,172a)⇒ 目標 22ha(2,200a)	2,172	2,217	<p>【ながの地区（長野市）】</p> <p>1. 野菜：次期作に向けて主体であるいちご、トマトは、消費者ニーズに即した産地奨励品種を導入するとともに、出荷経費削減策の実施、使用農薬等を改善し、生産性向上、及び花木等の導入による経営の安定化を推進。</p> <p>【ちくま地区（千曲市・坂城町）】</p> <p>1. 花き：次期作に向け実需者ニーズに即した産地奨励品種の導入、産地で奨励する肥料及び堆肥を利用した土壌改良を進め、土壌分析を行い土づくりの強化、土壌消毒、低迷する需要の消費維持を図るためトルコギキョウの仕立て変更（出荷調整）を推進。</p> <p>2. 野菜：次期作に向け、堆肥を投入して土壌改良を行いアスパラガスの安定生産の推進、又、産地で奨励する肥料・農薬を使用し安定生産の推進。又、野菜苗は機械化による生産コスト軽減と効率化によりリスク軽減を図り進め経営の安定化の推進。</p> <p>【須高地区（須坂市・小布施町・高山村）】</p> <p>1. 花き：次期作に向けて実需者ニーズに即した新たな品種の導入、産地で奨励する肥料、農薬を使用、産地で奨励する出荷資材を利用し安定生産を推進。またJA等による事業継承計画を策定し経営安定化の推進。</p> <p>2. 野菜：次期作に向け、堆肥を投入して土壌改良を行いアスパラガスの安定生産の推進するとともに、選果機を導入し出荷選別労力の軽減を図り生産力向上の推進。</p> <p>3. 果樹：次期作に向けて主体であるぶどうは、実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、安定生産のために加湿装置・空調設備・自動カーテン・かん水設備を導入し、出荷資材の調整を行い安定経営の推進。</p> <p>【松川地区（松川村）】</p> <p>1. 花き：次期作に向けて主体であるクレマチス、ヘリクリサムは、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、リスク分散安定生産のために加湿装置の導入・利用し出荷時期を品目ごとに調整を行うよう推進。</p>	対象作物である野菜・花き・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 12 松本ハイランド農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 193.9ha(19,398.3a)⇒ 目標 197.5ha(19,757a)	19,398.3	20,006.3	<p>土壌診断による土壌改良や産地で新たに推奨する肥料の施用、病害虫に対して新規薬剤散布の実施により品質向上と生産量確保に努めた。実需者ニーズに即した安定生産を行うため、品種説明会や栽培講習会、目揃会等を開催し品質向上と生産量の確保に努めた。春作や秋冬作などの作型を分散するため、新たな施設の設定と規模拡大を進めた。コロナ禍における販売面の影響を抑えるため、ピンチ作業により収穫時期を遅らせ夏秋期へ収穫時期を移行し手取り確保に努めた。</p>	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 13 駒ヶ根地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況20.1ha(2,010a)⇒ 目標20.1ha(2,010a)	2,010	2,010	<p>次期作に向けて、実需者ニーズに即した品種を導入するとともに、安定生産のために加湿装置の利用により生育を促すことを推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって新たな販売先の開拓を推進する。</p>	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
長14 伊那市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況23ha(2,336.6a)⇒ 目標24ha(2,400a)	2,336.6	2,462.6	次期作に向けて、アルストロメリア等の花きの生産では、需要者ニーズに合わせた新たな品種を導入するとともに、秋口の早期出荷に向けた株の養成と夜温確保のために加温装置の早めの設定を推進した。また、厳選出荷の取り組みとして、市場が求める品質や出荷量の情報を伝え、出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となった品質向上に向けた、栽培管理の徹底と出荷規格の厳守を推進した。野菜については、次期作に向けて、産地で推進する肥料・農薬等の導入・利用を進めた。果樹については、次期作に向けて、安定した収量確保に向け、防除機械の利用をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、りんごでは、産地で戦略的に推進する肥料及び農薬の導入・利用を推進した。	対象作物である花き・野菜・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長15 松本市農業再生協議会	令和2年度	事業実施区域の対象品目の作付面積が令和3年度末に現状以上となること 現況17.31ha(1,731a)⇒ 目標17.31ha(1,731a)	1,731	1,769	1 野菜：次期作に向けて、いちご、トマト等は産地等で推進する肥料及び農薬等の導入を推進した。 2 果樹：次期作に向けて、りんご等は産地が推進する農薬又は新たに機械を導入し取り組んだ。 3 花き：次期作に向けて、産地で推奨する品目又は品種の栽培に努め、市場のニーズに応えた。また、厳選出荷の取り組みとして、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって推進した。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長16 宮田村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況32.79ha(3,279.9a)⇒ 目標32.79ha(3,279.9a)	3,279.9	3,279.9	次期作に向けて、産地で戦略的に推進する品目、農薬の導入・利用を推進した。また、厳選出荷の取り組みとして、市場が求める品質等の情報を迅速に収集し、対応した出荷方針を策定した。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長17 箕輪町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況7.2ha(720a) ⇒ 目標8.0ha(800a)	720	967	1. 野菜：次期作に向けて、ぶなしめじは省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに集出荷経費の削減に資する資材の購入を行うとともに、JA等による事業継続計画の策定等を実施。 2. 果樹：次期作に向けて、乗用型管理機や選果機等の利用により生産コスト削減する取り組みを実施。 3. 花き：次期作に向けて、アルストロメリアでは実需者のニーズに即した新たな品種や農薬、資材等を導入し、安定生産の推進を実施。また、厳選出荷の取り組みとして、市場が求める品質等の情報や出荷方針をJAや関係者と共有し品質保持や出荷量調整を実施。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長18 茅野市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況：1,188a⇒目標： 1,250a	1,188	1,383	コスト低減と安定生産を図るため、産地等で推奨する肥料、農薬等の導入（共同購入）を行うとともに、出荷作業の効率化を図るため、産地等で推奨する梱包資材（段ボール等）の利用を推進した。また、厳選出荷の取り組みとして、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって長期保管による品質保持・出荷量調整ができるよう冷蔵貯蔵庫の導入・共同利用を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) ① (a)	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) ② (a)		
長 19 中川村地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況23.74ha(2,374a)⇒目標23.75ha(2,375a)	2,374	2,381	1. 花き：次期作に向けて、数年に一度植え替えが必須であるアルストロメリアなどの切り花は、更新の都度、需要者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定した品質のため加温装置を活用した栽培を導入。その他の花きも同様に、需要者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、肥料・農薬は品種によって即したものを導入し、高品質な栽培に取り組んだ。 2. 果樹：次期作に向けて、品質を上げるための灌水機器や肥料等の導入の他、冷蔵貯蔵庫を活用し、一定品質の出荷及びまた、通い容器等の導入を進め、集出荷経費の削減に資する取組を行った。 3. 野菜：次期作へ向け、施設栽培による安定した高い品質と、管内で推奨する梱包資材（段ボール）を導入することで、出荷経費の削減や痛みやすい野菜の品質の維持につなげた。	対象作物である花き・果樹・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 20 佐久市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況58.55ha(5,855a)⇒目標60.14ha(6,014a)	5,855	6,220	野菜、果樹においては次期作に向けて、大型トラクターや乗用モーターなど農業機械の導入・利用を推進するとともに、労働安全講習を開催し、農業機械の適正な利用法の普及に取り組んだ。水耕栽培など小面積でも高収益な農業を推進した。 花きについては、次期作に向けて優良な品種、品目の積極的な導入を図り、かん水装置や加温機、高機能な被覆資材の導入を推進し、需要が減退しても市場から選ばれる産地づくりに取り組んだ。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 21 飯島町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況7.4ha(740.9a)⇒目標7.4ha(740.9ha)	740.9	740.9	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、必要資材の導入や品質向上に必要な機器の利用を実施。また、厳選出荷の取組として、日ごろの適切な管理の重要性を関係者全体で共有し、生産者一体となって厳選出荷への取り組みを推進した。これらの取り組みにより、産地の維持発展に努めた。	対象作物である花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長 22 栄村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況30a⇒目標30a	30	30	次期作に向けて、安定収量確保のための栽培講習会や優良品種の導入などを推進した。地域で推奨する資材（肥料・農薬）等の導入を促し品質向上に努めた。また、加工品については村内においても地域内消費を促し、村外に向けても一層の販売を促進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長 23 東御市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況2.2ha(220.5a)⇒目標2.2ha(220.5a)	220.5	220.5	野菜の次期作に向けて、品質向上及び作柄安定を図るため、産地等で推奨する肥料、農薬の利用及び土壌改良資材の施用又は敷き草等の有機物の投入を実施。 花きの次期作については、生産性及び品質の向上を図るため、産地等で推奨する品目又は品種の栽培及び加温装置の利用を行う。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、施肥、防除、芽かき、摘花、整枝、選別、荷造りを実施。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長 24 南箕輪村農業再生協議会	令和2年度	村内の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況3.42ha(342a)⇒目標3.42ha(342a)	342	342	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために加温装置・空調装置の導入・利用を推進する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって長期保管による品質保持・出荷量調整ができるよう保冷库等の導入・共同利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長 25 坂城町農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況2.56ha(256a)⇒目標3ha(300a)	256	275	次期作に向けて、アスパラガスは夏秋採りの比率を高めるための灌水及び追肥による収量確保を図ったほか、バラでは実需者ニーズに即した新たな品種を導入とともに、品質低下防止のための薬剤の導入・利用を推進した。トルコギキョウでは、10月出荷の抑制作型への生産誘導により有利販売を目指し、観光農園では収益性の高い「施設いちご」への作目転換を促した。 一方、ぶどうは農薬の適正使用と適正な着果量による着色、糖度、房重確保を推進し、りんごは環境に配慮した害虫の交信攪乱剤等の拡大を推進した。加工品では、新規の需要拡大と商品パッケージ見直しや商品改良等を促すなど、産地として取組を実施した。	対象作物である野菜・花き・果樹において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
長 26 あづみ農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況4,085a⇒目標4,089a	4,085	4,089	1. 野菜：次期作に向けて、レタス、アスパラ等の生産性を上げると共に品質向上に繋がる資材活用（JAあづみ施肥基準を基にした施肥・防除体系の取組み）を推進するとともに、土壌改良による構造的安定化による作柄安定を図った。 2. 果樹：次期作に向けて、「新しい化高密度植栽培」の振興を中心とする省力化栽培体系の技術推進を図り、安定生産の推進を実施した。また、JA栽培指針による肥培管理樹体管理技術（JAあづみ施肥基準を基にした施肥・防除体系の取組み）を用いて推進を図った。	対象作物である野菜・果樹の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長 27 上田農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況11.89ha(1,189a)⇒目標12.07ha(1,207a)	1,189	1,227	次期作に向けて作柄安定に資する技術導入や生産性や品質向上に資する生産資材の導入、産地で推奨されている施設の利用や肥料及び農薬の使用を行った。また、品質横断的な労働安全講習会への参加など農作業安全の取組みをこれまで以上に充実・徹底を図った。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 28 諏訪市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況1,747a⇒目標1,750a	1,747	1,747	1. 野菜：次期作に向けて、産地で戦略的に推進する肥料、農薬のほか、堆肥の導入・利用を推進。 2. 果樹：次期作に向けて、産地で戦略的に推進する肥料、農薬の導入・利用、土壌分析を推進。 3. 花き：次期作に向けて、産地で推奨する又は実需者ニーズに即した品種の導入を推進。また、産地で戦略的に推進する肥料、農薬、資材の導入・利用も推進。また、厳選出荷の取組として、市場ニーズに応じた品質や出荷方針に関する情報を生産者やJAが共有し、生産者は当該情報をもとに施肥、摘花・整枝、選別などの作業を実施。	対象作物である野菜・果樹・花きにおいて、成果目標には至っていないものの、成果目標値は目標設定時に行った端数処理による設定値であり、作付面積は計画時の面積を維持しているため指導しない
長 29 安曇野市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 47.126ha(4,712.6a)⇒目標48ha(4,800.0a)	4,712.6	4,883.2	野菜（わさび）：次期作に向けて、産地の特産品としてわさび栽培に取り組む。湧水を利用した（かん水装置）わさび畑において栽培に取り組む。 花き：次期作に向けて、産地で推奨する品種の栽培、肥料の利用、かん水装置の利用等に取り組む。 果樹（りんご）：次期作に向けて、機械導入による生産コストの削減、農薬等の利用、かん水装置の利用による品質向上、土壌改良材の施用による土づくり対策等に取り組む。	対象作物である野菜・花き・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長30 南信州地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況240ha(23,736.4a) ⇒目標 24ha(24,000a)	23,736.4	24,551.5	1. 野菜：次期作に向けて、高品質な物が選ばれることから、産地で推奨する栽培管理の徹底を図り、品質の向上、ロットを確保し市場から求められる産地を目指す。 2. 花き：次期作に向けて、ダリア等では市場からの要請に対応するため、施設化を推進し、併せて出荷規格の見直し等を行い、柔軟に対応できる産地を目指す。 3. 果樹：次期作に向けて、品質の維持とロットの確保、安定的な出荷体制の構築を目指す。	対象作物である野菜・花き・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長31 富士見町地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積と同等規模以上の作付を行った。 現況15.3ha(1,535.9a) ⇒目標 15.3ha(1,535.9a)	1,535.9	2,408.3	1. 野菜：管内で推奨する品目又は品種の栽培を行い、指標に応じた施肥や農薬を導入。また作柄安定のための土壌改良等を実施。 2. 花き：実需者ニーズに即した品目・品種の導入及び品質向上のために土壌改良や肥料・農薬等の導入を実施。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長32 信州うえだ農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況3.04ha(304a)⇒目標3.27ha(327a)	304	331	・次期作に向けて、アスパラガス、ブロッコリー、高原野菜では、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び作柄安定のための技術導入や産地で推進する品目の導入を推進する。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長33 中野市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況24ha(2,483.2a)⇒目標24ha(2,483.2a)	2,483.2	2,628.0	きのこでは次期作に向けて、JAから委託されている試験栽培担当者による種菌の試験モニター栽培を継続し種菌の安定供給に努めるとともに、グループ別または各ロットグループ単位での栽培講習会、目揃え会を随時開催し、生産安定および品質向上に努める。また経費削減に向けた取り組みとして培地資材および出荷資材の見直しを行い、コスト抑制に努める。 アスパラガスでは次期作に向けて、高品質の野菜類を栽培するため産地で推奨する肥料の施肥また、その都度病害発生を確認し防除特報の発行を行う。併せて、農作業の安全講習会を開催し農作業事故の内容取り組む。 オウトウでは次期作に向けて、生産性向上・凍霜害・低温対策として加温機の導入を徹底するとともに、作柄安定のため保温対策の二重カーテンや、防風・防虫を目的としたネットの導入を推進する。ぶどうでは、高品質のぶどうを栽培するため産地で推奨する肥料の施肥等、生産性向上、適期な栽培管理を徹底する。 シャクヤクでは次期作に向けて、新品種の導入や土壌分析の実施により、長期的に栽培が継続できるように取り組む。安全講習会等の講習会を行い、安全に作物栽培に取り組む。 厳選出荷の取り組みでは、春先の高収益作物として市場のニーズにこたえるべく、作業を行うことをさらに周知徹底を行う。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

長野県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
長 34 飯山市農業再生協議会	令和2年度	令和3年度末の対象品目の交付対象面積が、申請時の面積以上となること。 現況880a⇒目標8.8ha(880a)	880	880	1 野菜：安全講習を受講し、安全管理を徹底するとともに、地域で推奨する品種の栽培及び土づくりのための土壌改良を行った。 2 花卉：施設栽培については、産地推奨の品種の栽培及び安全講習による安全管理の実施、また、産地推奨作物の作付けを行うとともに、高品質な花卉の育成を行い、併せて、市場に対応した厳選出荷を実施し、販売単価の下支えを行った。 3 栽培きのこ：産地推奨の品種を、施設内での空調等の適切な管理のもと、育成を行った。	対象作物である野菜・花き・きのこの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
長 35 川上村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付け面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況5,062 a ⇒目標5,063 a	5,062	5,072	次期作に向けて、野菜全般において梅雨時期の品質の低下を防ぐため、土壌の排水対策として深耕と天地返しを実施し、また、化学肥料に頼った栽培方法から転換のため堆肥の投入をし、有機栽培へと転換を促す。 多くの外国人技能実習生が滞在するため、彼らとともに労働安全講習等の動画を視聴し農作業の安全の充実を図る。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 36 南牧村農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況5,380a⇒目標5,381a	5,380	5,460	次期作に向けて、非結球レタスの収量を安定させ持続的な農業生産体系を確立するため、たい肥の投入を推進し、トラクター等の機械の点検を実施した。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
長 37 御代田町農業再生協議会	令和2年度	御代田町の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること。 現況：6,084a⇒目標：6,084a	6,084	6,840	1. 野菜：次期作に向けて、葉物野菜では、産地で戦略的に推進する品目や品種、農薬や肥料の導入・利用を推進する。 2. 花き：次期作に向けて切花等では、実需者のニーズに即し産地で推進する品種や農薬等の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静01 静岡県農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 7,257 a ⇒ 目標7,756 a	7,257	8,029	次期作に向けて、レタスにおいては、省力化によるコスト低減や生産・出荷工程における事故防止等を図るため、新たに受注システムの導入によるICT化により、経費の節減とは場情報の確認作業の省力化を実現する。 トマトにおいては、新たな施肥設計等の導入による生産性向上を図るほか、青ネギやブロッコリー等の露地野菜においては、労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推奨されている肥料等の導入や天地返しによるほ場の排水対策等を図る。 わさびにおいては、地域で推奨する優良品種・系統の導入や土壌改良のほか、品質・鮮度の高いわさびの出荷に取り組む。 その他野菜においては、次期作に向け土壌改良等に取り組む。	対象作物である野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静02 島田市担い手育成総合支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,612 a ⇒ 目標 1,792 a	1,612	1,827	1. 野菜【レタス・葉菜類】 次期作に向けて、土壌分析器の導入及び土壌分析を行い、適正土壌p hに向け土壌改良剤の導入を行う。 コロナ感染症対策など労働安全管理のための安全講習会を受講させ、労働安全意識の徹底を図る。 2. 茶 次期作に向けて、良質茶が生産出来る土作りを行うため、産地で戦略的に推進する緩効性肥料の導入・利用を推進するとともに、静岡県知事が定める新技術の導入を推進する。 コロナ感染症対策など労働安全管理のための安全講習会を受講させ、労働安全意識の徹底を図る。	対象作物である野菜・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静03 浜松市担い手育成総合支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 252 ha(25,245a) ⇒ 目標 252 ha(25,245a)	25,245	25,245	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、生産性と品質向上を図るため産地で推奨する肥料や農薬の導入・利用を推進する。作柄安定に資するため土壌改良資材の施用を行うとともに、作業環境の改善を図るため安全講習会等の受講を推進する。	対象作物である野菜・果樹・花き・茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静04 藤枝市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,136 a ⇒ 目標 1,136 a	1,136	1,625	【1. 野菜】次期作に向けて、労働安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、新たな肥料や農薬の導入、耕運機及び運搬機の購入、ハウス栽培においては排水性の改善等を実施することで、品質と収量の向上を推進した。 【2. 茶】次期作に向けて、労働安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、新たな肥料や農薬の導入により品質と収量の向上を、草刈り機の購入により生産コストの削減を推進した。	対象作物である野菜・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静05 富士市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 293 ha(29,273a) ⇒ 目標 294 ha(29,400a)	29,273	30,860	作物の品質向上のための対策として、土作りのための土壌改良剤の投入を行い、保肥力の高い土作りを目指す。さらに肥料の流失防止や省力化になる緩効性肥料・有機質肥料を推奨し、作業の効率化と肥料の流失防止を図り、牽いては品質の安定化を図る。 農薬では、作用機分類(RACコード)を利用し、抵抗性を抑えながら防除作業の効率化を推進する。 また、需要が回復される際には品質の安定と、流動性の高い品種選定が必要となることから、栽培する品種選定は出荷市場と話し合いながら行い、産地としての奨励品種として販売価格の安定を目指す。	対象作物である茶・花き・野菜・果樹の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静 06 掛川市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品 目の作付面積が令和3 年度末に現況面積以上 となること 現状 774 ha(77,420.7a) ⇒ 目 標 775 ha(77,500a)	77,420.7	80,117.3	次期作に向けて、生産性向上、品質向上に資する肥料、資材を利用し、取組を実施する。また、土壤改良、土づくりを実施し、継続的・安定的な生産を進める。 また、直販など販路開拓を進め、バランスの取れた販売先の確保を目指す。 今般の新型コロナウイルス感染症の経験から、安全な労働環境の整備・改善だけでなく、健康管理を含めた改善を進める取組を実施する。	対象作物である野菜・ 花き・茶の作付面積は 計画時より増加しており、 目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静07 牧之原市農業総合支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 168,984 a ⇒ 目標 169,030 a	168,984	168,984	<p>1. 野菜 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産・省力化に向けた機械化を推進する。次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材の導入・利用を推進する。また、大葉では厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって品質保持・向上に努める。</p> <p>2. 果樹 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産・省力化に向けた機械化を推進する。次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材の導入・利用を推進する。</p> <p>3. 花き 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産・省力化に向けた機械化を推進する。品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材の導入・利用を推進する。また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって品質保持・向上に努める。</p> <p>4. 茶 次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材の導入・利用を推進する。また、生産性・流通コストの削減を目指し、機械化体系の導入・利用を推進する。厳選出荷の取組としては、茶商が求める品質等の情報やそれに対応する生産方針を関係者全員で共有し、生産者一体となって被覆の実施や仕上げ機による粉引き等に取り組む。産地として戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材とは、下記の項目を1つ以上備えた生産部会や茶工場、出荷先の施肥設計及び注文書等に記載された肥料及び農家自身が選定した施肥設計により、高品質な生産を平準化する肥料を言う。 ①「高有機肥料」・・・土壌の団粒化、腐植物により地力の向上、微生物による肥料の分解を促進する。 ②「環境に配慮した肥料」・・・硝酸態窒素の流亡を防ぎ効率的な肥効を目指す。 ③「産地（生産部会や茶工場、出荷先）で推奨された肥料・土壌改良資材」・・・これまでも生産において利用し実績がある、または新たに開発された肥料・土壌改良資材で産地（生産部会や茶工場、出荷先）で推奨された肥料・土壌改良資材。 ④「低コスト高品質肥料」・・・近隣5つのJAの連携により新たに開発された肥料やJAハイナン独自のPB肥料。 ④「天敵農薬」・・・抵抗性発達抑制に向けローテーション防除に天敵農薬を取り入れる。</p>	対象作物である野菜・果樹・花き・茶において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静08 三ヶ日町農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 747 ha(74,742a) ⇒ 目標 747 ha(74,742a)	74,742	76,243	1.果樹 次期作に向けて産地として戦略的に推進する生産性・品質向上のための資材の導入及び土づくりに資する取組と労働安全講習会の受講を中心に推進を実施した。その他に生産者のニーズに応じてかん水設備の導入、鳥獣被害防止技術の導入の推進を実施した。 2.花き 次期作に向けて実需者ニーズに即した品種の導入及び産地としてまとまって推進する生産性向上のための農薬の導入の推進を実施した。	対象作物である果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静09 富士伊豆農業協同組合 (伊豆の国農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,660 a ⇒ 目標 1,660 a	1,660	1,660	1.野菜 次期作に向けてミニトマトでは、安定生産を図るため、土壌消毒剤の利用やかん水設備の設置・土壌改良・排水対策の実施・土壌診断を行う。 2.花き・メロン 次期作に向けて、実需者ニーズや静岡県の育成した奨励品種を導入するとともに、安定生産のために土壌消毒の実施、肥料や機器の導入などを実施。 また、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷対応を行う。 3.わさび 品質向上のため苗の導入と土壌改良材の投入、アオムシ対策として生物農薬(BT剤)の使用、灌水設備の導入を行う。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静10 清水農協花卉運営委員会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 866.2 a ⇒ 目標 867 a	866.2	884.2	次期作に向けて、生産性・品質・単価向上を目的に、新しい苗の導入(改植)を行うとともに、耕種的防除や資材、統一肥料の導入・利用を推進する。	対象作物である花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静11 静岡市農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 36,015 a ⇒ 目標 36,030 a	36,015	36,030	1.お茶 次期作に向けて高品質な茶生産の為にJA推奨の肥料、農薬、土壌改良材の購入及び作業改善に取り組むためのJA主催の労働安全講習会等を実施した。 2.わさび 安定供給に向けてJA推奨の苗と農薬の購入を実施した。 3.いちご・キウイ 次期作に向けて、JAが推奨する品種の導入と肥料購入により出荷量の増加と出荷延長を図った。また、専用ダンボールによる共同販売に取組みJA静岡市ブランドの声価を高めた。 4.花卉 安定供給に向けてJA推奨の苗と農薬の購入を実施した。 5.野菜 次期作に向けて、苗の確保及びJA推奨の肥料を購入し、安定出荷と収量増加を図った。 また、厳選出荷の取組として、品質向上のための収穫作業、選別調整作業に関係者が取り組んだ。	対象作物である茶・果樹・花き・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静12 御前崎市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 16,812 a ⇒ 目標 16,900 a	16,812	17,459	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産・省力化に向けた機械化を推進する。 また、次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、産地で戦略的に推進する肥料、農薬及び土づくり・作柄安定に資する土壌改良資材の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・果樹・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静 13 富士伊豆農業協同組合 (あいら伊豆農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 7,266 a ⇒ 目標 7,266 a	7,266	7,266	伊東市・熱海市ともにすべての品目の土壌において“腐食”の値の平均値が基準より低いいため、次期作に向けた有機質の補給を目的とする土壌改良剤の施用に取り組んだ。選定した資材は、通常の堆肥の10分の1の量で同等の効果が発揮できるため、農家の労力軽減にも寄与する。 また、併せて農作業安全啓発のためのDVDを視聴する。	対象作物である果樹・花き・野菜の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静 14 静岡県温室農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 3,019.6 a → 目標 3,100.0 a	3,019.6	3,019.6	生産性又は品質向上に要する資材等の導入に資する品種の導入を行う。 と、ともに、蒸気消毒機による土壌の消毒の実施、もしくは天地返しを行い土壌を活性化させ高品質なメロン栽培に取り組む。	対象作物である野菜において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導
静 15 大井川農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 1,827 ha(182,730a) ⇒ 目標 1,827 ha(182,730a)	182,730	185,813	1. 野菜 【レタス・葉菜類】 次期作に向けて、新品種の導入、防除指導徹底を行いシーズン中の安定出荷を図る。土壌分析器の導入及び土壌分析を行い、適正土壌pHに向け土壌改良剤の導入を行う。 コロナ感染症対策など労働安全管理のための安全講習会を開催し、労働安全意識の徹底を図る。 【トマト・ミニトマト】 次期作に向けて、生産に大きく影響する黄化葉巻病対策としてこの病気を媒介するコナジラミを防除するため、防除効果の高い農薬を導入し、病虫害防除を徹底し生産性の向上を図る。 コロナ感染症対策など労働安全管理のための安全講習会を開催し、労働安全意識の徹底を図る。 2. 果樹 次期作に向けて、品目横断的な労働安全講習会を開催し農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させるとともに、土壌改良資材を推進し、より品質の高い果実の生産を目指す。農産業安全講習会を開催し、労働安全意識の徹底を図る。 3. 花き 次期作に向け、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産を図る。土壌養液分析を行い、高品質な花き生産のため施肥管理を徹底する。 また、厳選出荷の取組として、市場が求める品質等の情報やそれに対応する出荷方針を関係者全員で共有し、トルコキキョウでは生産者一体となって芽かき作業を徹底し、高品質安定生産を行った。 4. 茶 土づくり資材（土壌改良材）の施用を行っていないため、適正pHでない生産者が多く、強酸性土壌が多く見られる。次期作に向けて土壌pH計の導入、土壌改良材の施用を推進し、改めて良質茶が生産出来る土作りを推進する。茶工場ごとのGAP取得を推進する。 コロナ感染症対策など労働安全管理のための安全講習会を開催し、労働安全意識の徹底を図る。	対象作物である野菜・果樹・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静16 静岡市地域農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 4.6 ha(462.2a) ⇒ 目標 4.6 ha(462.2a)	462.2	462.2	(わさび) 次期作に向けて、優良品種の導入、産地で戦略的に推進するBT剤、土壌改良資材の導入・利用を推進する。 (茶) 次期作に向けて、産地で推奨する肥料および土壌改良資材の導入・利用を推進する。	対象作物である野菜・茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静17 遠州中央農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 158,716 a ⇒ 目標 158,716 a	158,716	158,716	次期作に向けて、省力化によるコスト低減と安定生産を図るため、新たに機械の導入や産地で推奨する肥料、農薬、資材の導入・利用を推進する。また、茶においては新たにGAP取得や、新規の販路開拓に向けて生産者一体となって取り組む。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静18 清水農協茶業委員会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 9,442 a ⇒ 目標 9,442 a	9,442	11,859	次期作に向けて近年使用者が増加している乗用摘採機の安全講習会を実施し、農作業事故への意識を高め対策を徹底する。また、次期作の茶品質と収量の維持向上のため、秋肥の追加施用および土壌改良資材の投入を産地で推奨する。資材は肥料2資材(ゴマの大地・新エコロン426)、土壌改良材2資材(苦土セルカ2号・ネバリン)の導入利用を推奨する。厳選出荷の取組みは、手摘み・被覆茶栽培・紅茶生産を産地として取り進める。	対象作物である茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静19 とびあ浜松農業協同組合	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 575 ha(57,543.4a) ⇒ 目標 575 ha(57,543.4a)	57,543.4	64,127.7	1. 野菜 次期作に向けて、産地で戦略的に推奨する品種の栽培を徹底する。また、農作業安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させる。 2. 花き 次期作に向けて、産地で戦略的に推奨する品種の栽培を徹底する。また、作柄安定への取組として土壌分析を実施する。 3. 果樹 次期作に向けて、産地で推奨する防除暦に沿った防除を徹底する。また、農作業安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させる。 4. 茶 次期作に向けて、産地で推奨する新規農薬の利用を推進する。また、農作業安全講習会を開催し、農作業安全の取組をこれまで以上に充実・徹底させる。	対象作物である野菜・花き・果樹・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静20 富士伊豆農業協同組合 (富士宮農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 12,483 a ⇒ 目標 13,000 a	12,483	12,483	1. 野菜 次期作に向けて産地として無機化成から有機化成の導入や土壌改良材の投入を推進する。 2. 茶 次期作に向けて産地として土壌改良材の導入に取り組み、苦土分の補給により次年度の生葉の品質の向上を目的とする。また、厳選出荷の取組みとして、異物混入を防ぐための化粧ならしや、良質な芽を出すための整枝作業、被覆の実施等を生産者一体となって取り組む。	対象作物である野菜・茶において、計画時の現況面積以上の成果目標設定としたが未達成のため指導

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静21 富士宮市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 2,899 a ⇒ 目標 2,899 a	2,899	3,782	1. 野菜 次期作に向けて、運搬機、梱包用機械などの導入による効率化及びコスト低減を図り、産地で戦略的に推進する有機肥料、農薬の導入及び土壌分析や天地返しの実施による品質や収量の向上を推進した。 2. 花き 次期作に向けて、鉢物の花きでは、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、害虫被害の防止資材の導入による品質の向上や、自動でスマートフォンなどにデータを送る温湿度計を導入し効率化を図ることを推進した。露地の花きは、産地で戦略的に推進する肥料の導入により出荷量の増加を推進した。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静22 富士伊豆農業協同組合 (三島函南農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 5,446.1 a ⇒ 目標 5,446.1 a	5,446.1	5,446.1	1. 野菜 次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために産地として推奨する肥料、農薬及び被覆資材の導入利用を推進する。また、労働安全講習会の受講により、農作業安全の取組強化を図る。 2. 花き 実需者のニーズ把握に努め、現状に即した品種の導入を進めると共に産地として推奨する肥料、農薬及び被覆資材を導入する。 3. 茶 厳選出荷の取組として、市場・消費者が求める品質や出荷方針を関係者で共有し、それに対応する肥料、農薬を産地で戦略的に導入する。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静23 富士伊豆農業協同組合 (御殿場農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 241 a ⇒ 目標 241 a	241	241	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、安定生産のために産地で推奨する土壌改良資材や農薬の利用を推進する。 また、労働安全講習会の受講により、農作業安全の取組みを強化する。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静24 磐田市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 391.7 a ⇒ 目標 391.7 a	391.7	391.7	次期作に向けて、実需者ニーズに即した新たな品種の栽培のために、市場から要望のあった品種を生産するとともに、安定生産のために産地で推奨される農薬、肥料等を導入・利用する。 また、販路として通信販売の導入や、消費段階における利用実態を把握することで、需要に応じた効率的な生産、販売に取り組んでいる。	対象作物である野菜・花きの作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静25 吉田町担い手育成支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 4,700 a ⇒ 目標 4,700 a	4,700	4,911	1. 産地戦略的に推進する肥料を使い土壌改良を行った。 2. 空調設備等の導入を行った。	対象作物である野菜・花き・茶の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静26 菊川市担い手育成総合支援協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 672 ha(67,259a) ⇒ 目標 672 ha(67,259a)	67,259	88,388	1. 野菜 レタス、メキャベツ、トマトを中心に 作業安全に関する研修を実施し、作業中の事故防止を図るとともに、産地で戦略的に推進する苦土セルカの導入。 2. 茶 労働安全講習会を実施し、農作業安全の充実・徹底を図るとともに、産地で戦略的に推進する肥料・農薬の導入・利用を推進 3. 花き 実需者ニーズに即した新たな品種の導入及び生育不良改善のための推奨肥料・農薬・土壌改良剤等の導入。	対象作物である野菜・茶・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された

高収益作物次期作支援交付金に関する事業評価票

高収益作物次期作支援

静岡県

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			現況面積 (計画時) (a) ①	左記に相当する 面積の現況面積 (令和3年度末) (a) ②		
静 27 富士伊豆農業協同組合 (南駿農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現状 64,718 a ⇒ 目標 64,718 a	64,718	64,718	【茶】茶商が求める品質・GAP等の生産方針を積極的に導入し、また統一施肥基準の推進による茶葉品質統一化を図った。 【花卉・野菜】高品質な生産を目指すため土壌診断結果に基づき適切な培土調整による効率的な作付けを行った。 【柑橘】産地維持・拡大に向け、生産者との座談会を定期的に行い黒点病防除にも取り組んだ。	対象作物である茶・花き・野菜・果樹の作付面積は計画時から維持されており、目標は達成された
静 28 袋井市農業再生協議会	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 733.1 a ⇒ 目標733.1 a	733.1	735.2	1. 茶 肥料会社等が販売し一定量流通している肥料の導入及び土壌改良剤の施用、農作業安全講習会を実施した。 2. 花卉 ツワブキ、アジサイ、バラについて、実需者ニーズに即した品種(新たな品種及び自力開発の独自品種)の導入、肥料会社等が販売し一定量流通している肥料の導入、温室へのヒートポンプ設備の導入を実施した。 3. 温室メロン 産地として推奨する品種の栽培及び土壌蒸気消毒を実施した。	対象作物である茶・花き・野菜の作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された
静 29 富士伊豆農業協同組合 (伊豆太陽農業協同組合)	令和2年度	事業実施地区の対象品目の作付面積が令和3年度末に現況面積以上となること 現況 27.6 ha(2,762.0a) ⇒ 目標27.6 ha(2,762.0a)	2,762.0	2,795.6	1. 野菜 次期作に向けて、わさびは産地戦略書に基づき推奨品種の栽培を推奨と冷風貯蔵庫の利用により安定生産を図る。また、被害防止技術として戦略書に基づき高温障害防止を目的とした寒冷紗の導入及び野生動物の食害防止となる鳥獣被害防除を推進していく。また、有利販売と品質保持を目的として、2kg用の白地の発泡スチロールで出荷規格を統一する。メロンは優良品種の導入と土壌消毒等の活用、苺は推奨品種の導入と、安全講習会の実施、推奨新規農薬を活用する。 2. 果樹 労働安全講習会を受講し、労働安全に努める。共販出荷者は産地ブランドを強化するため、共通の出荷資材を使用すると共に出荷規格を統一し有利販売に努める。また、草生栽培、鳥獣害対策の推奨、推奨肥料の活用について行っていく。 3. 花き 次期作に向けて、ニーズに即した新たな品種を導入するとともに、品質と生産性向上のために、新農薬導入を推奨する。	対象作物である野菜・果樹・花きの作付面積は計画時より増加しており、目標は達成された